

DL-Raw.Net


ぐぅうっ・・・!!
ギリ
ギリ
ギリ
ギリ
ギリ
もうよい！限界じゃ!!
外せ!!
ガッ
ブチッ

……はあっ!!

ぶはっ

第十八話 戦利品









この処刑具では確実に罪人を絶命させるのは難しい

重りの負荷が少なすぎて頸部の圧迫が足りていないのだ

ただいたずらに苦しみを与えるだけだろうな




ブリ
うわあっ!!
ニュッ
ひいいいいっ!!
体中の穴という穴から血が噴き出す地獄絵図
おまけに処刑後数人が蘇生するという事態まで起こった
その為ーー



「死刑」のプロである首討役 洞門沙夜に知恵を借りる運びとなったのだ
こんな玩具のようなものに頼るとは・・・・
しかし首討役よ世は移り変わっておる
西洋じゃあ斬首は残酷だと廃止する流れが強まってるのだ
この国の処刑も堕ちたものだな
我が国も近代化を進める上では・・・・・・
簡単な話だ

西洋には私ほど

人を斬る技術に長けた者が存在しないのだろうな

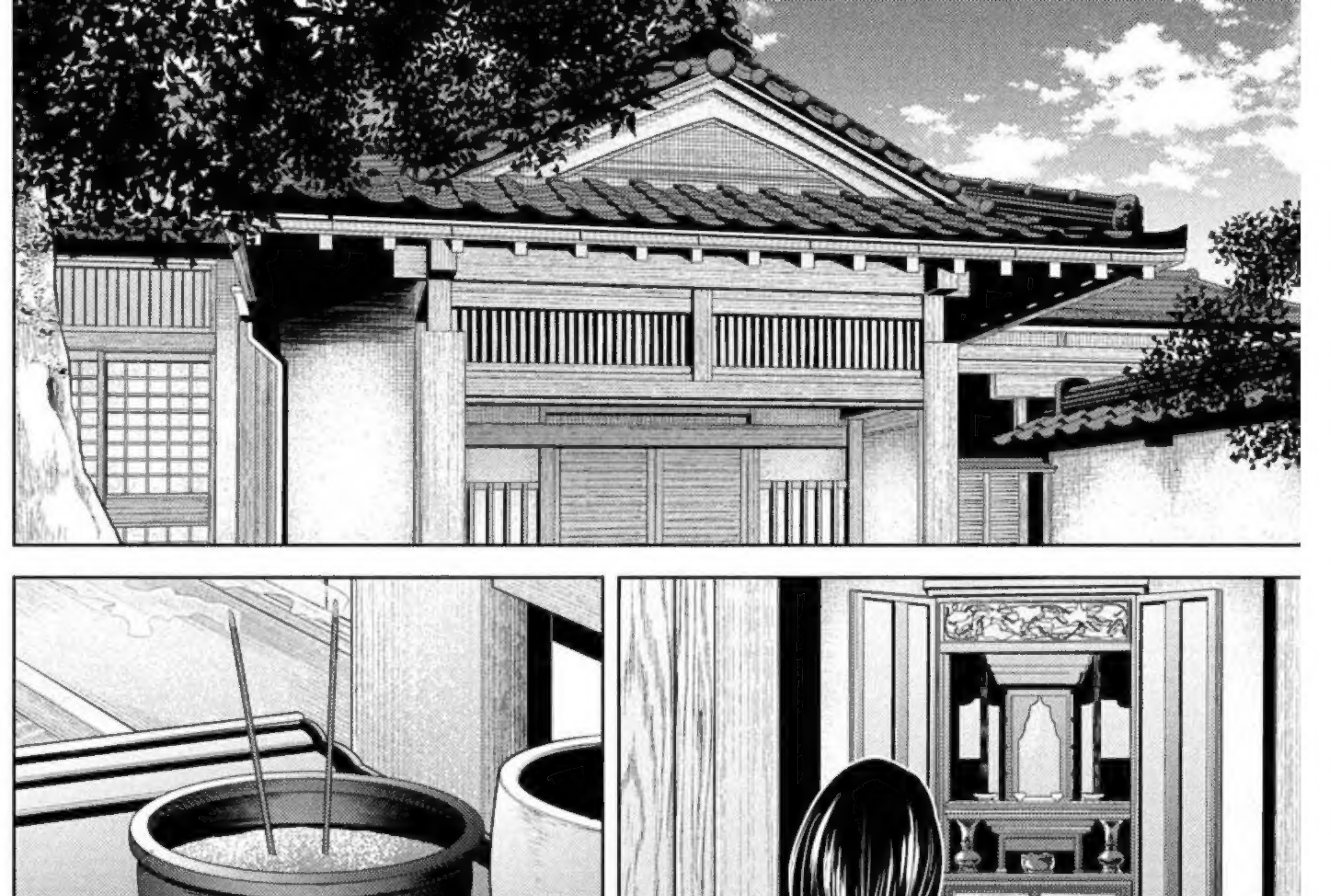
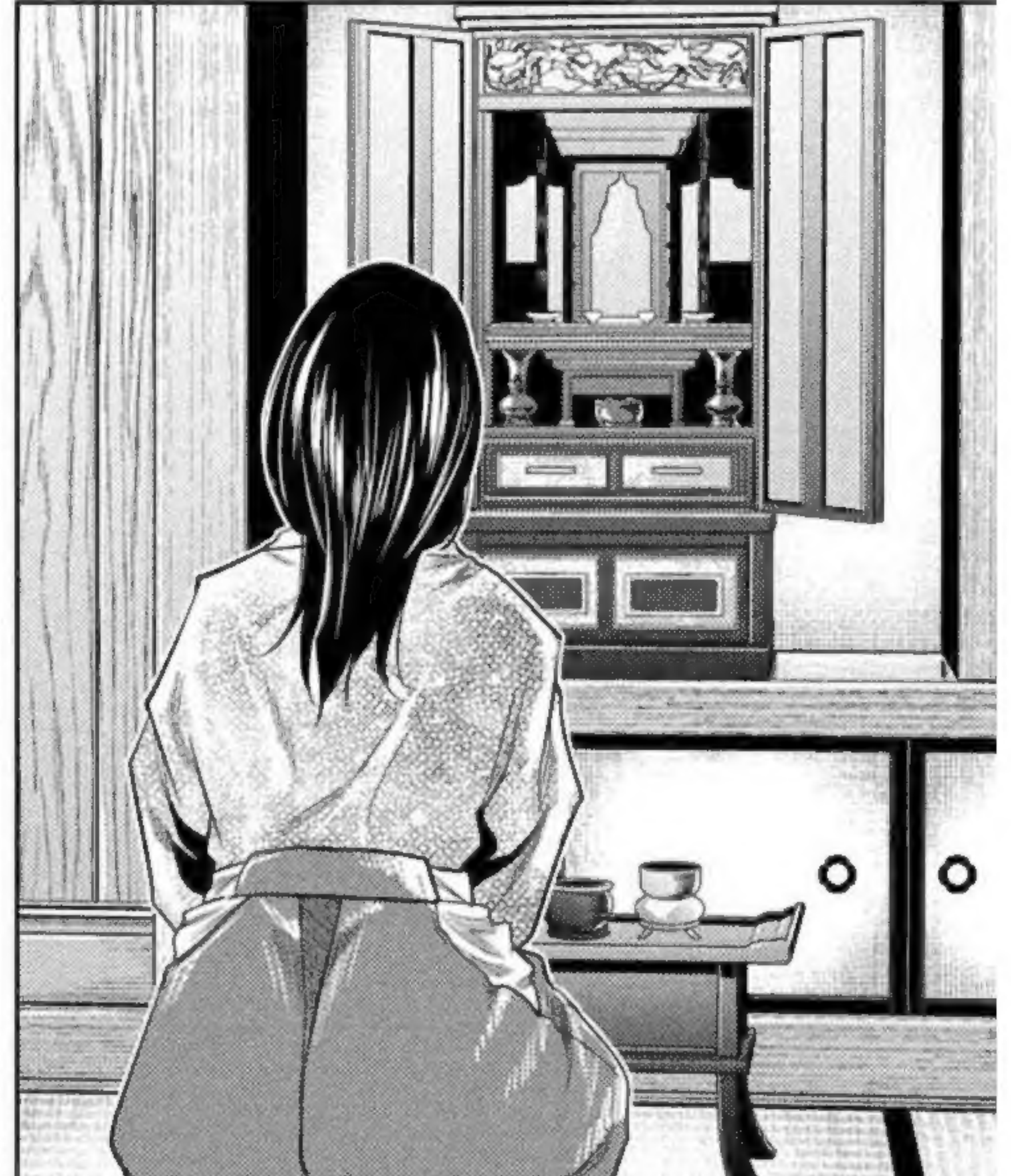


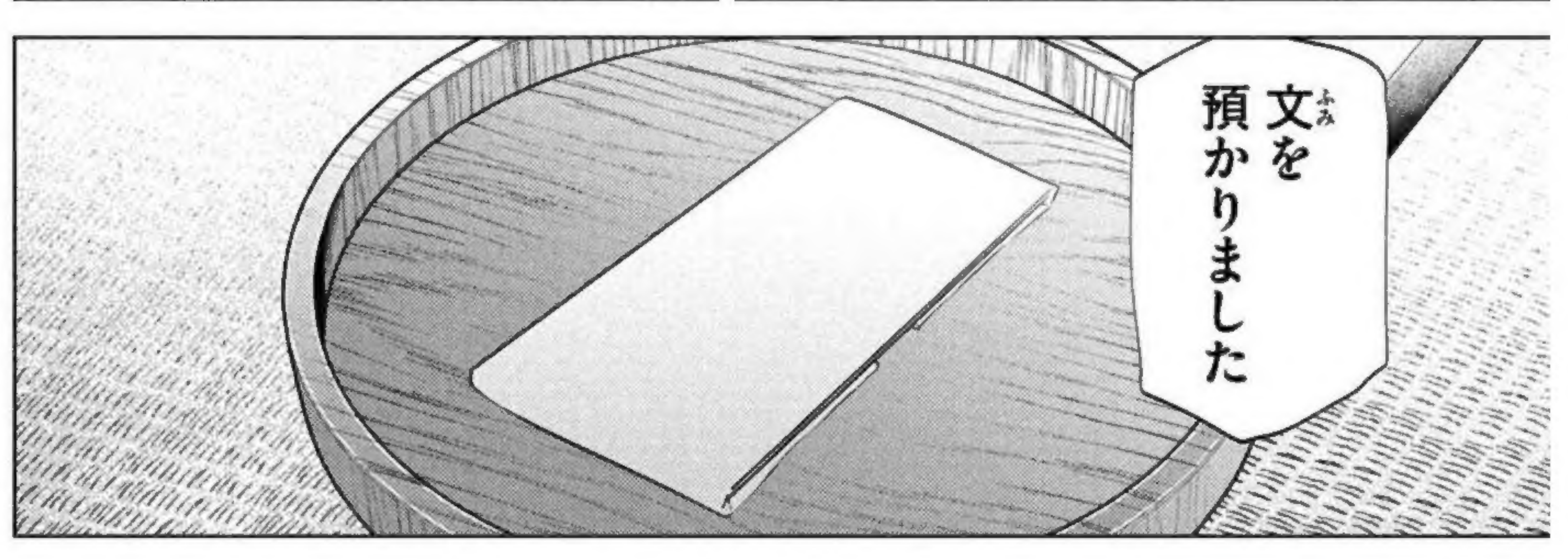









当主

文(ふみ)を預かりました


やあ




来てくれてよかった
「どうしても見せたいものがある」と言うからだ
またくだらん与太話をする気ではあるまいな
ああ・・・・僕はたった今
ドイツから帰ってきたんだ
共に旅してきた人たちに別れを告げ一人帰国した
どうしてもこれを・・・・
スッ


君に
見せたくて


これは
ギロチンという
斬首刑用の
処刑器具だ


ギロチン
……

これがあれば
もう君が……
いや
誰も人を斬る
事がなくなる
……


…フッ

フフ……
相変わらず
何も
わかっちゃ
いないな……

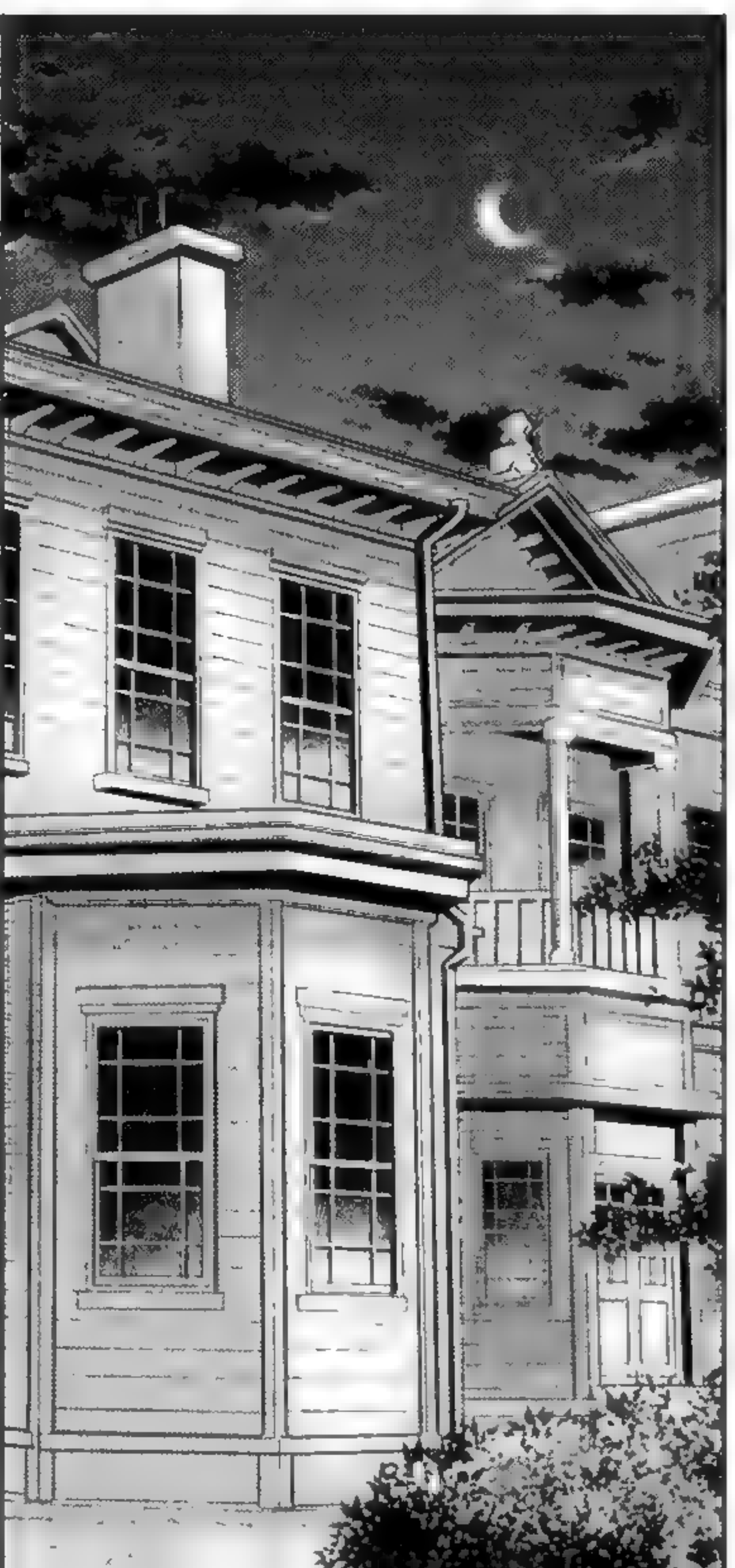


今この国は斬首そのものを廃止しようと動き出してる
こんな器械・・・・認められるわけがあるまい
えっ・・・・？
いずれ全て絞首刑に取って代わられるだろう
近代化の弊害というやつだ
わざわざ遠方まで出向いたようだが無駄足に終わったな
・・・・だが
幸乃助

……ありがとう








いやーー幸乃助
やっと帰って
きやがったな!
連絡もしねえで
……心配してたんだぞ
まったく!


わ……
悪かったよ
兄さん!!
でも……
だからって
……


こんな
……

こんな歓迎しなくていいよ!!

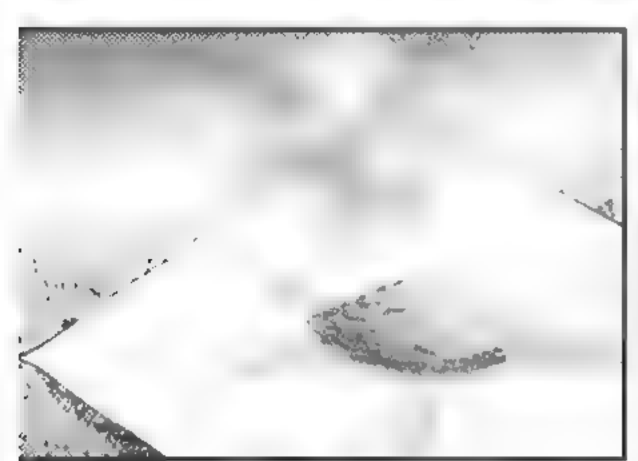
何を言う お前のために吉原のおしょく※を集めたんだ

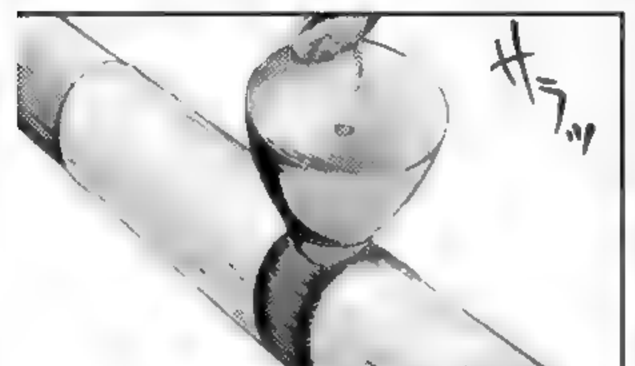
存分に楽しみな!!

※No.1遊女の事。

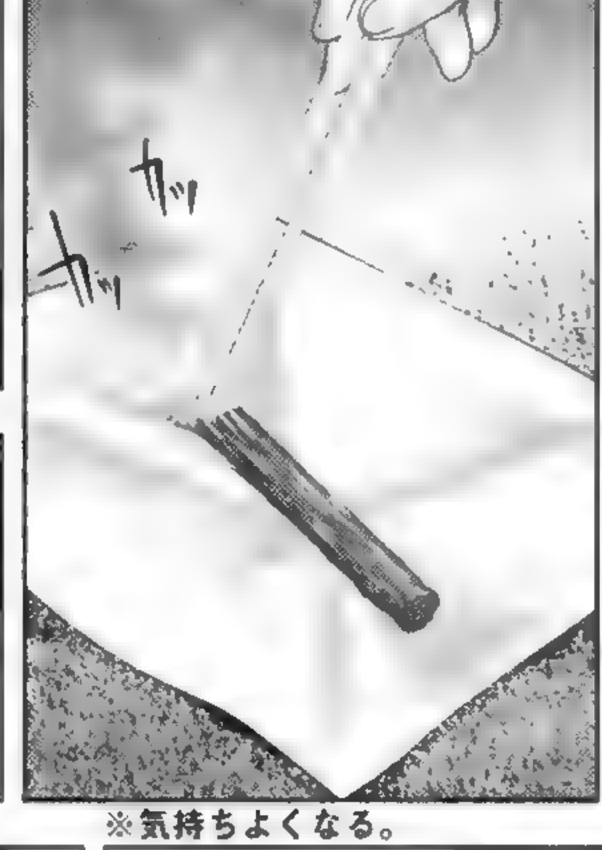














※気持ちよくなる。

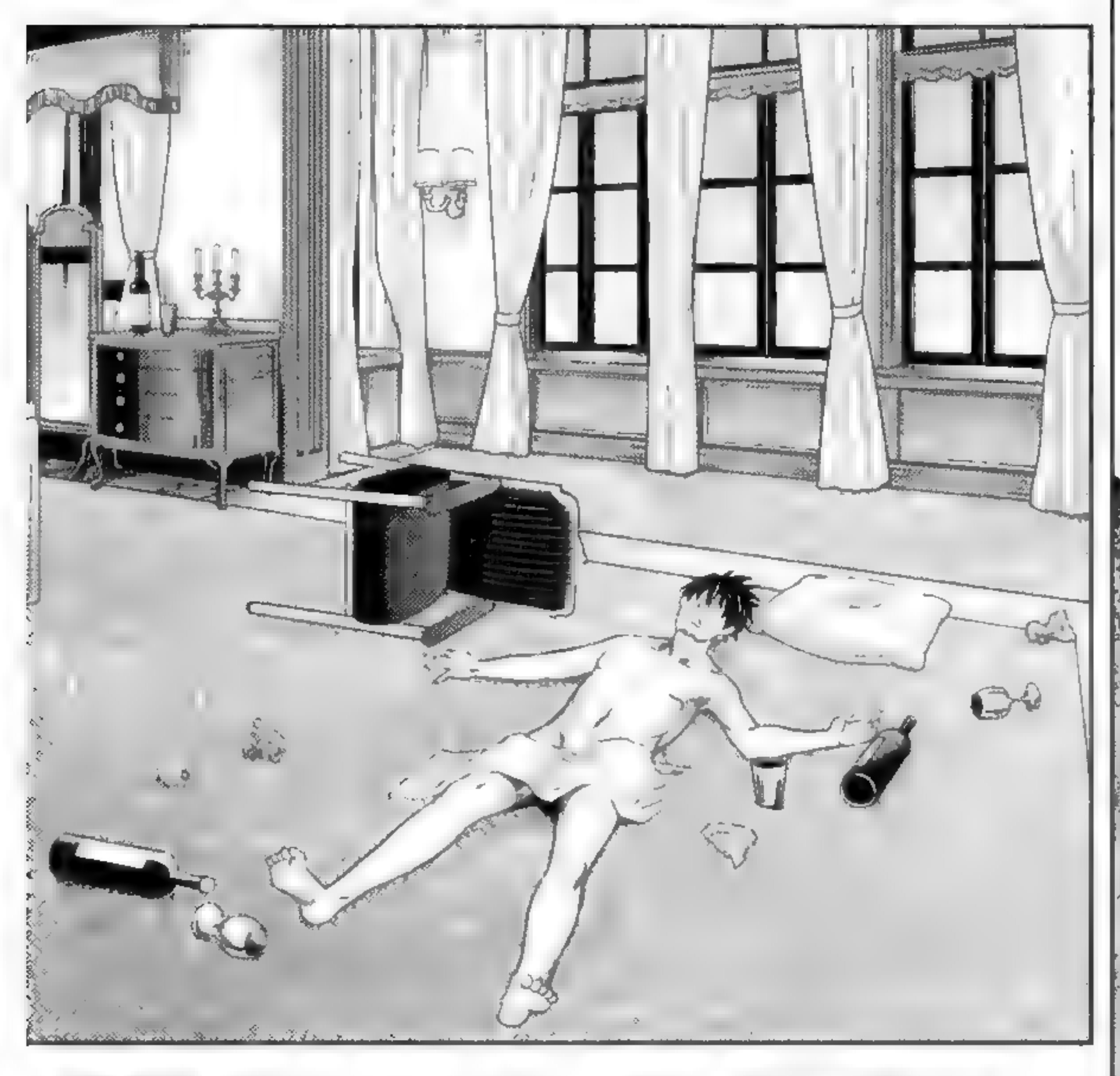



なっ……なんだ!?
これは……
……いて
抱いて


抱いてくれ
幸乃助
洞門沙夜……!?
どうして……
あっ……
あああっ……!!
沙夜……
沙夜……


沙夜っ……!!!






…っ……!!
よう幸乃助
昨夜は
どうだった!?


!
俺が
いないほうが
ハメ外せたろ?
おーおー派手に
やりやがったな
こりゃ….



兄さん…なんだか
よく覚えて
いないんだが…
あの後…
娘たちは
帰ったのか…？

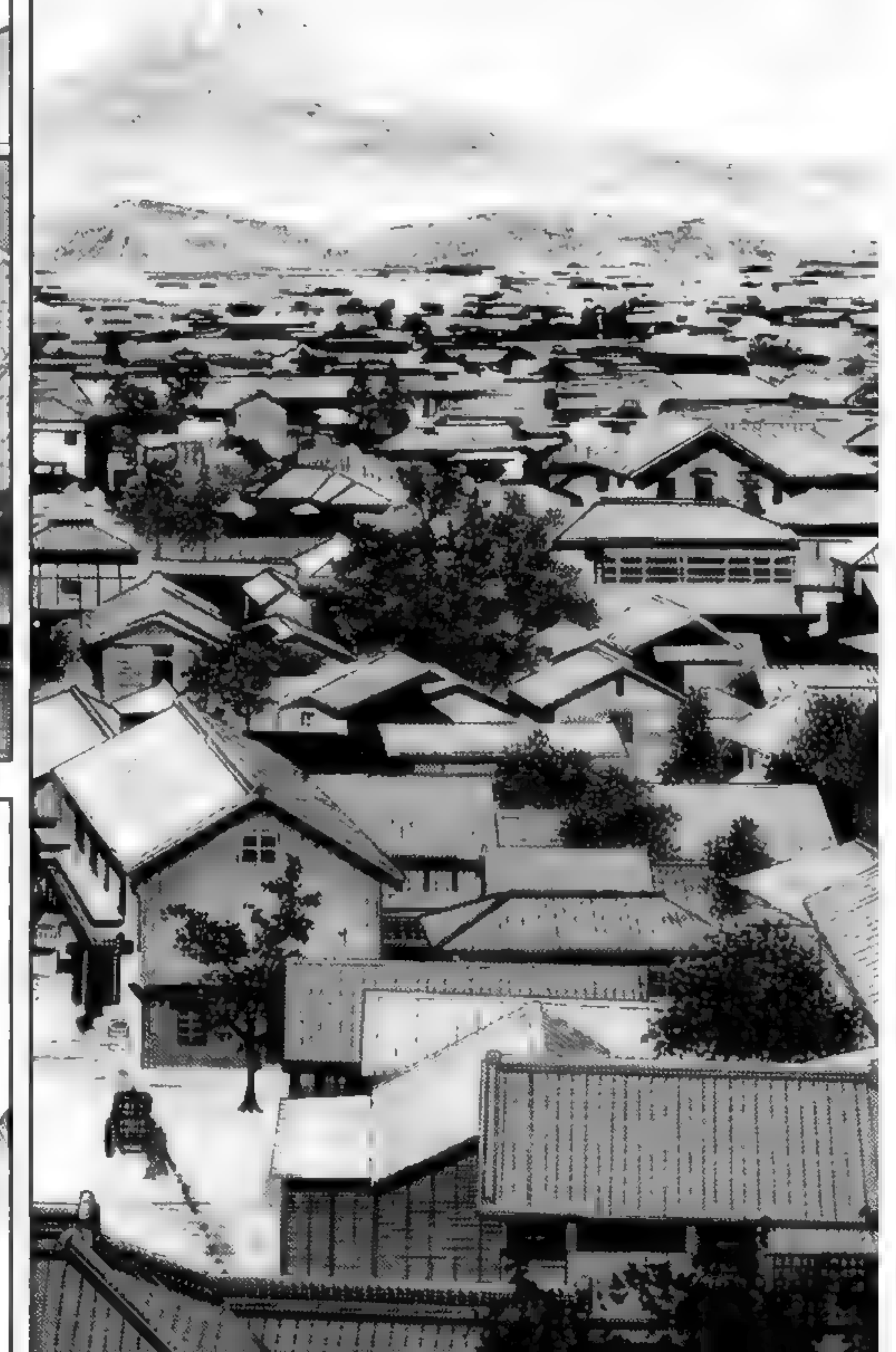
沙夜…
洞門沙夜は…
ズキ
ズキ…
うう…

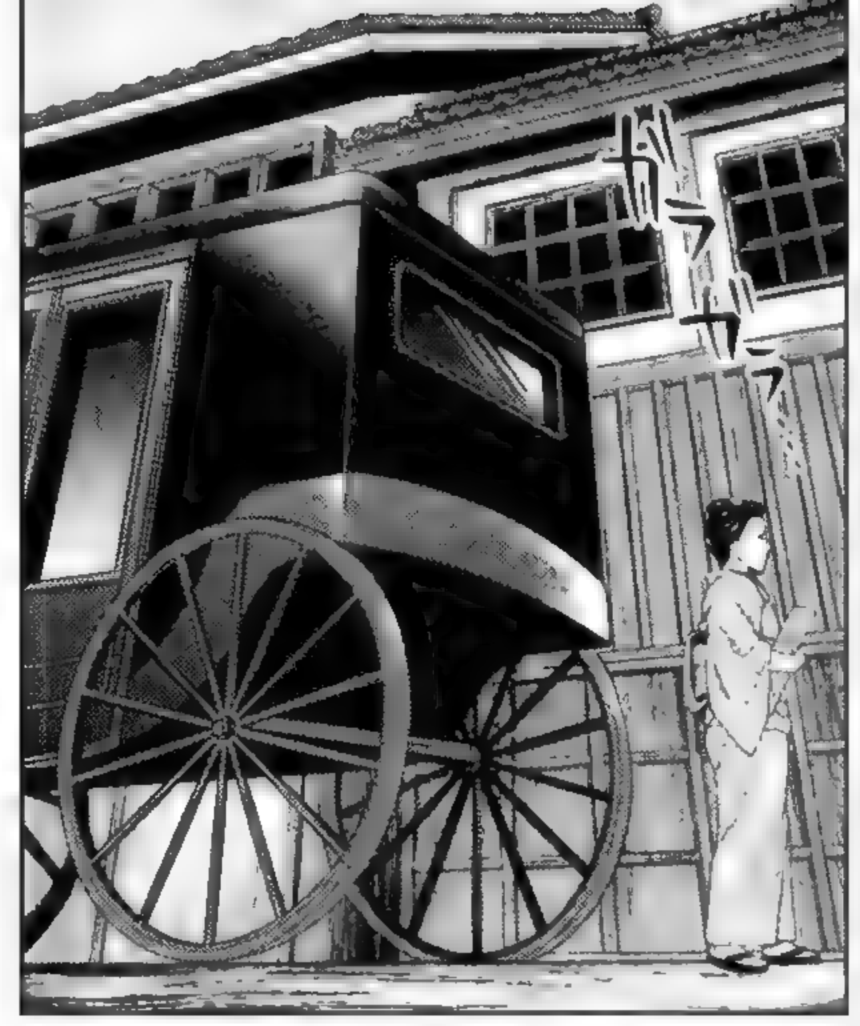
幸乃助

!!
バ
ァ
ン


お前・・・・
これを吸ったのか!?
・・・あ・・ああ・・・・・・そうだ・・・・
そしたら何かぼうっとしてきて・・・・
意識が・・・・・・
あの女ども・・・・こんなもん持ちこみやがって・・・
いいか幸乃助よく聞け
バキャッ!
これは大国清朝を滅ぼした悪魔
その名を


阿片(あへん)という

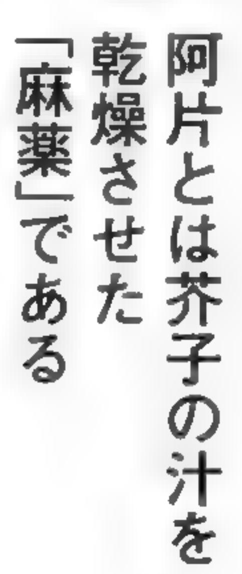


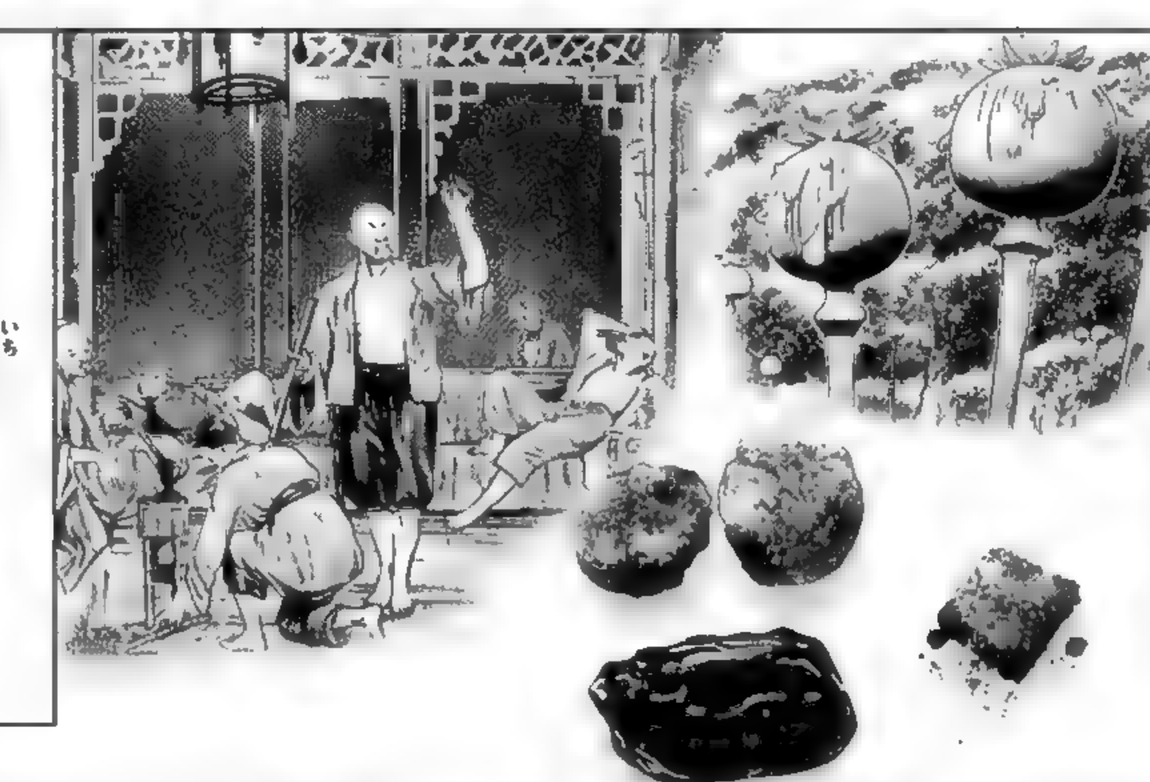



…どこに連れて行くんだい……？兄さん
……


お前の治療さ

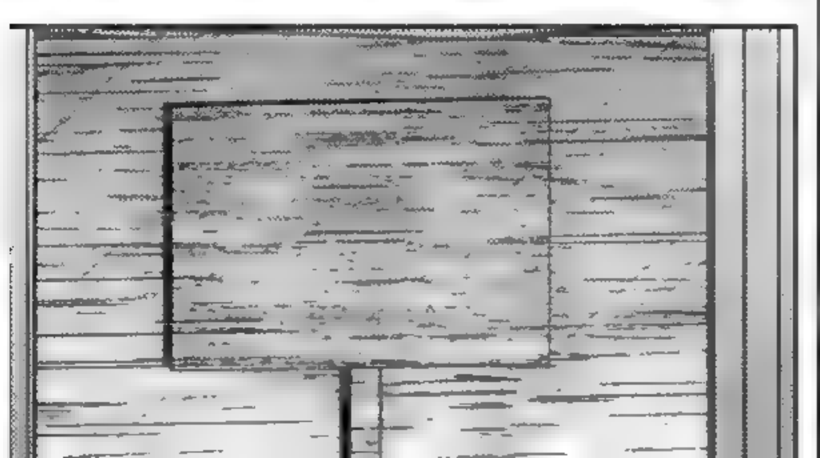

芥子の汁の鎮痛作用は古くから医薬品として用いられてきたが
同時に強力な依存性を持つ
イギリスが清に大量に阿片を流した事から蔓延が始まったんだ

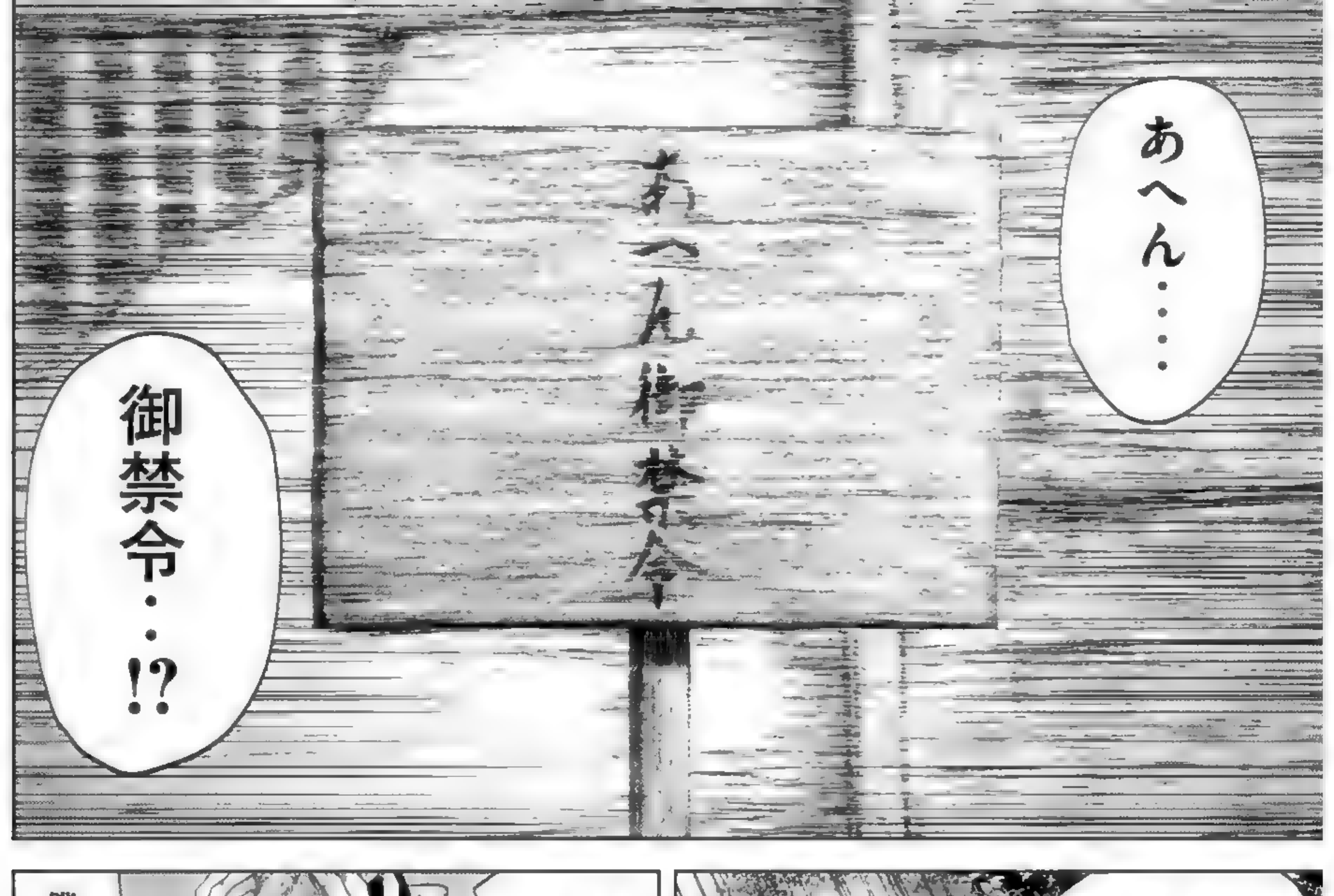

阿片とは芥子の汁を乾燥させた「麻薬」である


当時アジア一の大国であった清は国の中枢まで阿片中毒者であふれ国家転覆の危機に陥った


阿片輸入をなんとか止めようと挑んだがイギリスに大敗を喫したのが
かの「アヘン戦争」である


あれを見ろ





昨今 外国商人が使用人として連れてくる清人によって日本にも持ちこまれてな

ガラララ・・・

状況を重くみた政府が厳しく取り締まり出したのさ

そんな・・・・恐ろしいものを吸ってしまったのか・・・・

僕は・・・・

大丈夫だ兄さんもうそんなものには近寄らない

本気だよ・・・!!


気持ち
よかったろう
？
！

えも言われぬ
快感が襲い
かかったはずだ
この世の
ものとは
思えぬな……

…それは…

容易に忘れられる
もんじゃねえ
一度やりゃあ体は
一生それを覚える

忘れるんじゃ
ない
刻むんだ

阿片の先に待つ

地獄をな





※国が特定物資の生産・物流・販売を全面管理する事。





阿片で儲けようという奴らは腐るほどいる
横浜 長崎 各地の港から日本に入りこみ
娯楽の少ねえ遊女なんかに裏で売りさばいてるのさ



一度 阿片の虜になれば……どうなると思う？
……どう…なる？
何もしなくなるんだよ



……？





こいつらのようにな




・・・
うっ・・・・・!!
なんて臭いだ・・!!
煙と・・・汗と糞尿の混ざった・・・・
ゴホッ
ゴホッ
なぜこんな場所に平気で・・・・なんだここは!!
阿片ってのはな吸うだけでいいんだ
それだけで極上の快感を味わい続けられる

だから何もしないただ寝てるだけだ
飯も食わず糞尿をたれ流し
阿片を吸い続ける
……!?




なぁ・・・・
あたしのぼぼ※
味わってみんかい・・・？
好きにしてええよ・・・・
そんかわり阿片をおくれ


あと ひと吸いで
無くなっちゃう
のよ
おくれよ
・・・・・・
ねえ・・・・

※女性器の事。






お前・・・・
あっ・・朝霧・・!?
朝霧か!?
第十九話 終

朝霧っ……！
なぜこんな所に
いるんだ!?

フフフ……
……
はて……？

君は
吉原の遊女……
朝霧だろう!!

第二十話 朝霧の幸せ




抱いておくれよ
兄さん


……!!


ポン
……重症だ




阿片患者は
全身やせ細り 青白く
生気が抜け落ちていく
食欲は減退し
不眠・幻覚・言語障害
を引き起こす

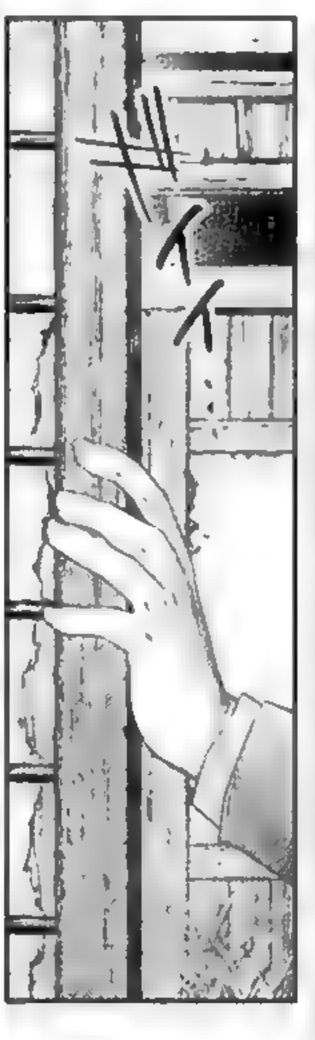



もはや
お前が誰かも
思い出せんだろう
ただ
死を待つのみだ
……幸乃助

諦(あきら)めろ



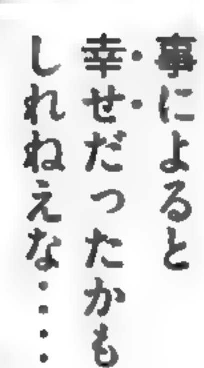

……


ギイイ…




!!?
出してくれ
お前…!!
あれ…？
ここは……？
なんだか床がふかふか…
助けられやしねえぞ？


兄さんが買い上げた
吉原の楼に・・・置いて
あげてくれないか？
面倒は
僕が見る
まあ あそこには
隔離できる部屋は
いくらでも
あるからな
しかし・・・・
なんだ・・・・

ククク・・・・
ハハハ
ハハハ
!!

朝霧は あの
クソダヌキに
一生 飼われてた
ほうが
事によると
幸せだったかも
しれねえな・・・・

おかしくって
しょうがねえよ
!

そうだろ？
籠の中の
鳥ではあるが
実の父親を殴る事も
阿片中毒で骨と皮
だけのボロボロの体に
なることもなかった
・・・・・
まったく・・・・

……ままならねぇよ……

この世は……




ウフフ‥‥
あら小鳥さん
‥‥‥
ぴいぴい
ぴい‥‥‥
よしよし
ウフフ‥‥‥


阿片はな
吸ってしばらくは
全身調子がよく
快感に包まれる
だが夜にもなれば‥‥
切れてくる
‥‥‥‥‥


‥‥人間じゃ
なくなるぞ‥‥
覚悟
しとけ


パタン‥‥





あぁあ〜〜〜!!

痛いっ……
苦しいよお!!

ひいいっ……!!

阿片……
阿片をおくれ!

少しで
いいから!




阿片を吸えば治る
阿片を吸えば
また苦しむ
理解していても
体はもはや
止められず――
死ぬまで
阿片を求め
のたうち回り
続ける――
苦しいっ……
苦しい!!!
嫌や……!!
おっ父……
おっ母……
うちもう
生きていとう
ない……!!
もう……


え・・・・?

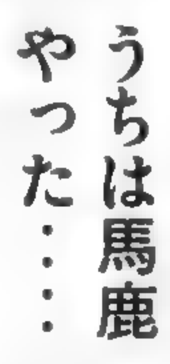

を想う
が……
人に惚れる
種が……
君にもらって
欲しいんだ
わっちを
お抱きんし
忘れられる
まで……
僕を
男にしてくれた
初めての女に

……兄……
さん……？

ああ……
うちは……


夢を見とるんやろうか・・・・・？


あっ……


兄さん聞いて・・・・
うちは馬鹿やった・・・・


女郎あがりの女が一人で生きていく事なんてできんかったんよ
家もなく・・・・食い扶持も稼げず・・・・
気づけば一夜の宿を求めて股を開く「夜鷹」になっとった



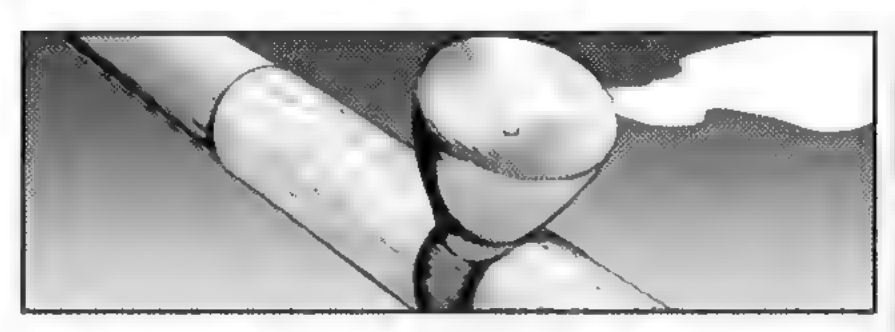
阿片に出会ったんはそん時ですわ・・・・
吸ってる間は忘れられた・・・・・・
泥にまみれた銭かき集める暮らしの侘しさも・・・・
ああ・・・・嫌ぁ・・・・・・・
見んでください・・・・
兄さんにこんな体・・・・見られとうない・・・・・
こんな・・・・痩せこけた・・・
みすぼらしい体・・・・
朝霧


美しいよ
君は


やっぱり
兄さんは優しい人
もう一度会いに来てくれた――
こんな体を・・・美しいと言ってくれた
うちが唯一人心から惚れた男に――
また抱いてもらえた


うち


幸せや





第二十話 終


首を斬らねば
分かるまい



浄閑寺

第二十一話 横浜居留地






遊女の
「投げこみ寺」と


朝霧(あさぎり)・・・・


・・・・一人
じゃねえ
!

身寄りのない
吉原(よしわら)の遊女は皆
ここに眠ってる
病死した奴・・・・
心中した奴
楼(ろう)の主人に放火の罪を
被(かぶ)せられ火あぶりに
された奴もいる

来世はにぎやかなほうがいい……

無念の叫びでもな

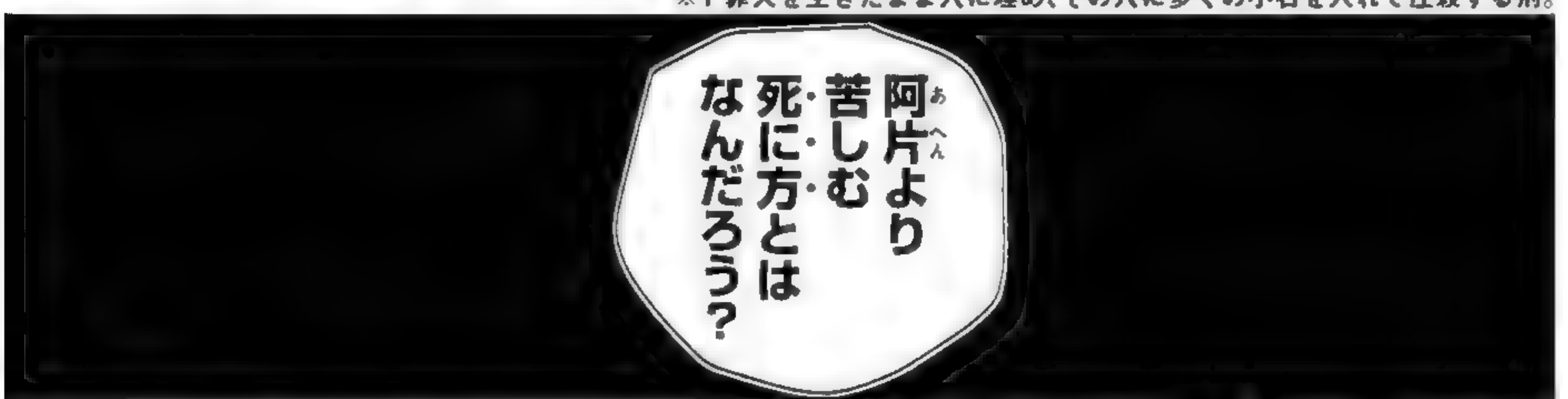






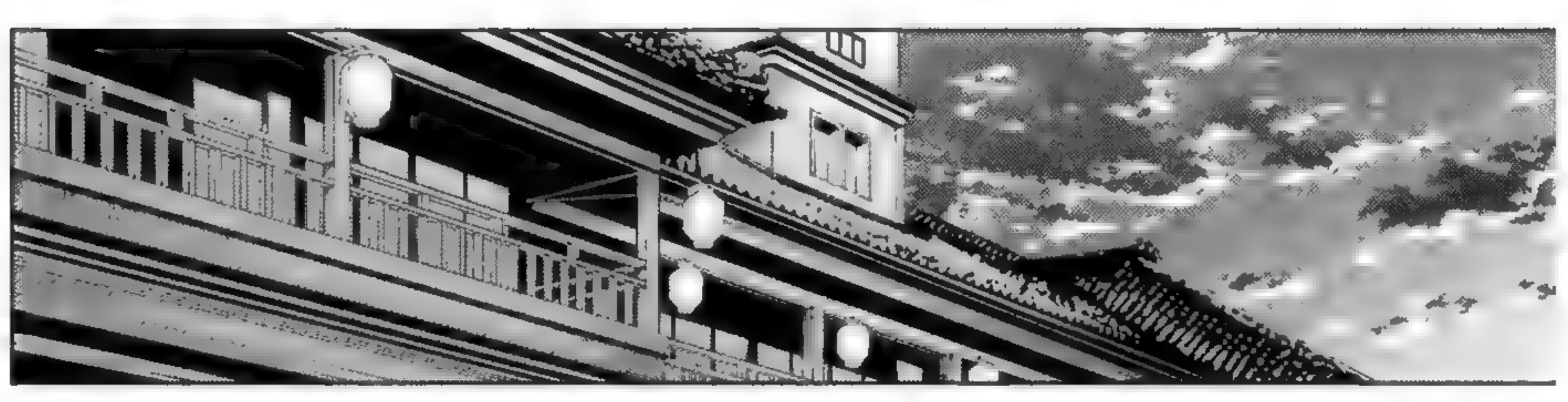


※1 罪人を生きたまま穴に埋め、その穴に多くの小石を入れて圧殺する刑。



※2 罪人の手足と暴れる牛の角とを縄で繋ぎ、罪人の身体を引き裂く刑。






誰から買った
名を教えてくれ


ああっ…そうすえ…
あの夜 お前さんに
吸わせた……
あああっ!!
阿片は…あ……
あいつから
買った……
パァン
パァン
パァン


あっ……
あああーっ!!
おっ……

教えるっ・・・・
なんでも言うから・・・・
もっと突いてぇ獣のように!!







横浜外国人居留地

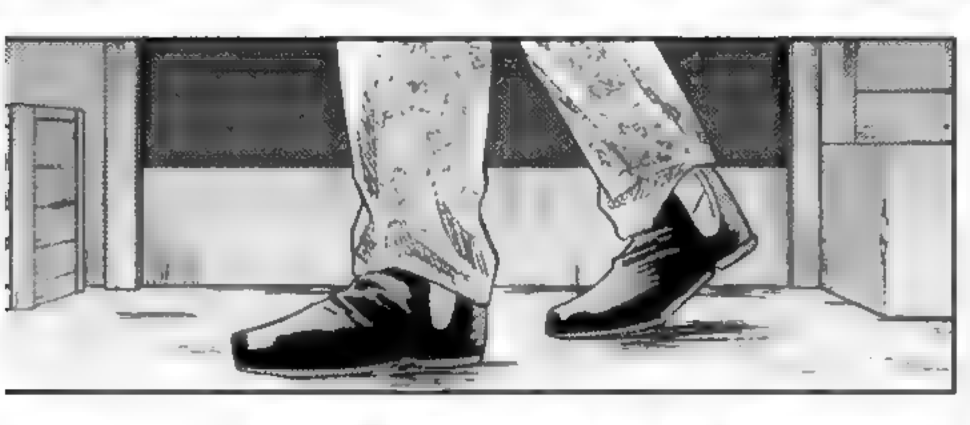


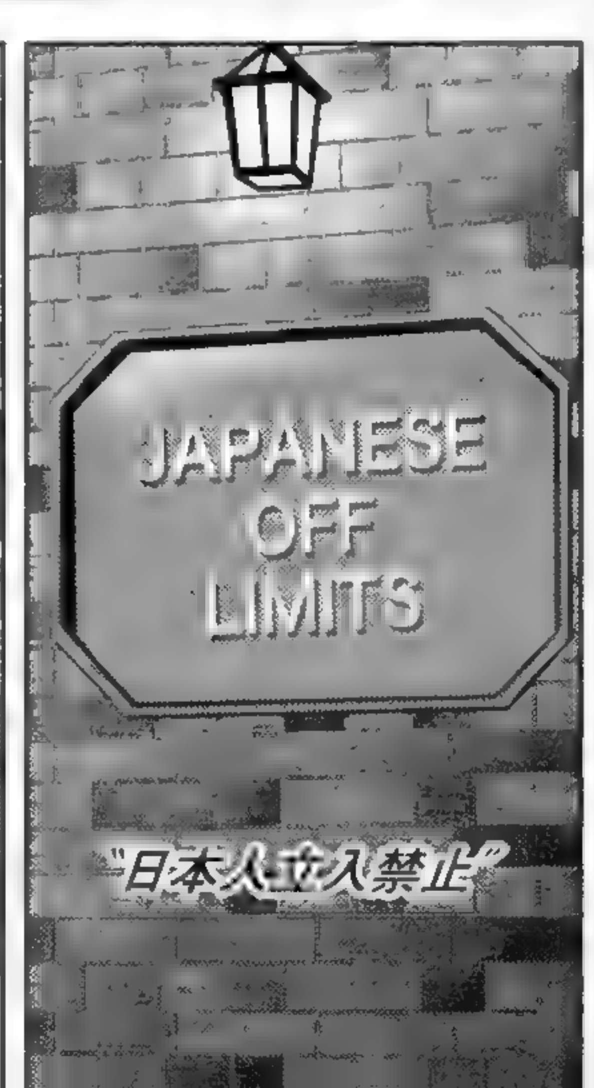
幕末に結ばれた
通商条約によって
外国人の居住・商業が
許された場所を
「居留地」と呼んだ
横浜の居留地と関内
山手居留地
山下居留地
関内
横浜以外にも
東京・大阪・長崎・神戸
などに存在していた

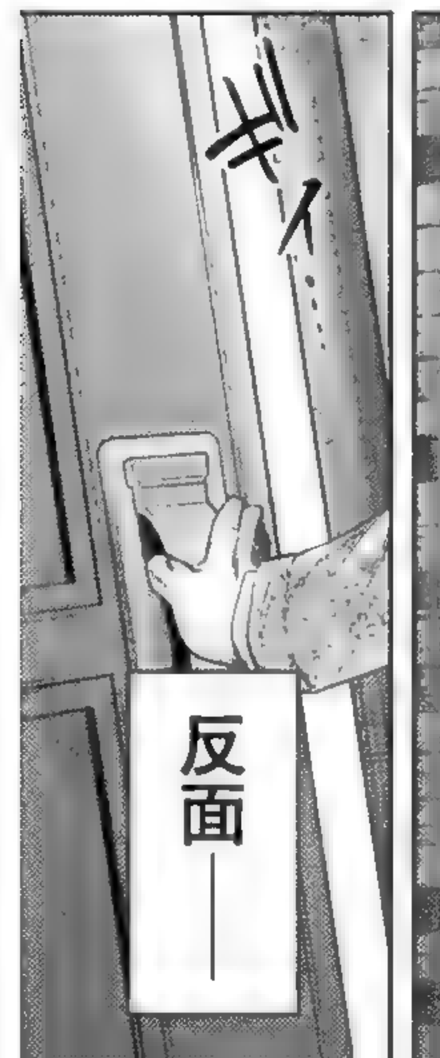
異国の雰囲気さながらだな……

アメリカを思い出す……












ピ…
日本人には近寄りがたい場所だった
ジャ
ガッ
ガッ
人を捜している
ホワット？


エリックという
イギリス人の
商人だ
どこにいる?


さあ
知らない
お前ら
知ってるか?





いやあ そんな奴聞いたこともねえなあ
ヘイ 日本人
ここで妙な真似をしないほうがいいぞ?









うぐっ
shit!!
!
てめぇ・・・・
ぐはっ!
ぎゃああ!!


ひっ‥‥!!
教えてくれ
どんな目に
あうんだ?

アォウ!!



アヘンあげます
あなたにも!!

あ・の・人・に売った分
分けてもらう!!





洞門沙夜(どうもんさよ)!?


なぜここにいる
洞門沙夜!!
その箱は
いったい
なんなのだ!?
貴様こそ なぜ
こんな所にいる
愛州幸乃助
僕は……
阿片の売人を
追ってきた
それはっ……
ならば
……


第二十二話 新たな商売
!!
生かしては帰せんな
知・ら・れ・た・か・ら・に・は


いいぞサヨ
やるんだ!!
殺せ――!!
ガシャア
軟弱な御曹司かと
思っていたが
なかなか
やるな
洞門沙夜
……!!
なぜだ!?
教えてくれ
!!
首斬り家である君が
なぜ阿片の売人に
!!



うあっ!!
首を・・・狙った!!
本気で僕を・・・
殺す気か!?
幸乃助・・・


やはり何もわかっていなかったようだな
ズ
ザワ
ザワ
イヤアーアー
キャアア!!
私から刀を奪うという事
その意味を!
おわかりですか!!
むうっ!
ゴロ


ギロチンはかつて
フランスが生み落とした
悪魔であり
決して
日本に持ちこまれては
ならない!
ボアソナード
明治政府法律顧問
お雇い外国人
ボアソナードは
「日本近代法の父」
と呼ばれ
拷問 斬首刑を
廃止するべく
刑法改正に力を
そそいだ
斬首など近代国家には
ふさわしくない
うむむ
これからの世は
絞首刑ですぞ
残酷だ
野蛮だわ


当主 今や斬首刑は
例年の半分以下に
減っております
様斬り 人丹も
禁止され
いったいどうすれば
いいのか・・・・
・・・・それでも
貧民への施しや
死者の供養は続ける
首斬り家の
義務だからな
しかしっ・・・・
それでは!!
我々が食って
いくことも・・・・
心配するな
この国の闇は
私の庭だ


新たな商売を始めればよい――
それで・・・・
阿片を・・・・!?

薬を売るのは人丹で慣れている

金持ちや遊女志士崩れなどの上客に

密輸入された阿片を流すのが私の仕事だ

……!!





私が今まで罪もない人々を
何人殺してきたと思っている？


いつだってそうだ
母ちゃんに……
懸命に生きる者たちばかり
死ぬのは明日の暮らしも見えぬ世の中で
ごめんねって伝えてけれ……
生きるのは人を踏みつけ利用し
ふんぞり返って甘い汁を吸う者たちばかり
そうだろう
特・権・階・級・愛州幸乃助よ


お前のせいで


この刀は
血に塗れ続ける
僕は——


僕のしてきた事は
全て
無駄だったのか？


変えられねえさ
何もな


アメリカに
ドイツに
僕は何をしに
行ったんだ？

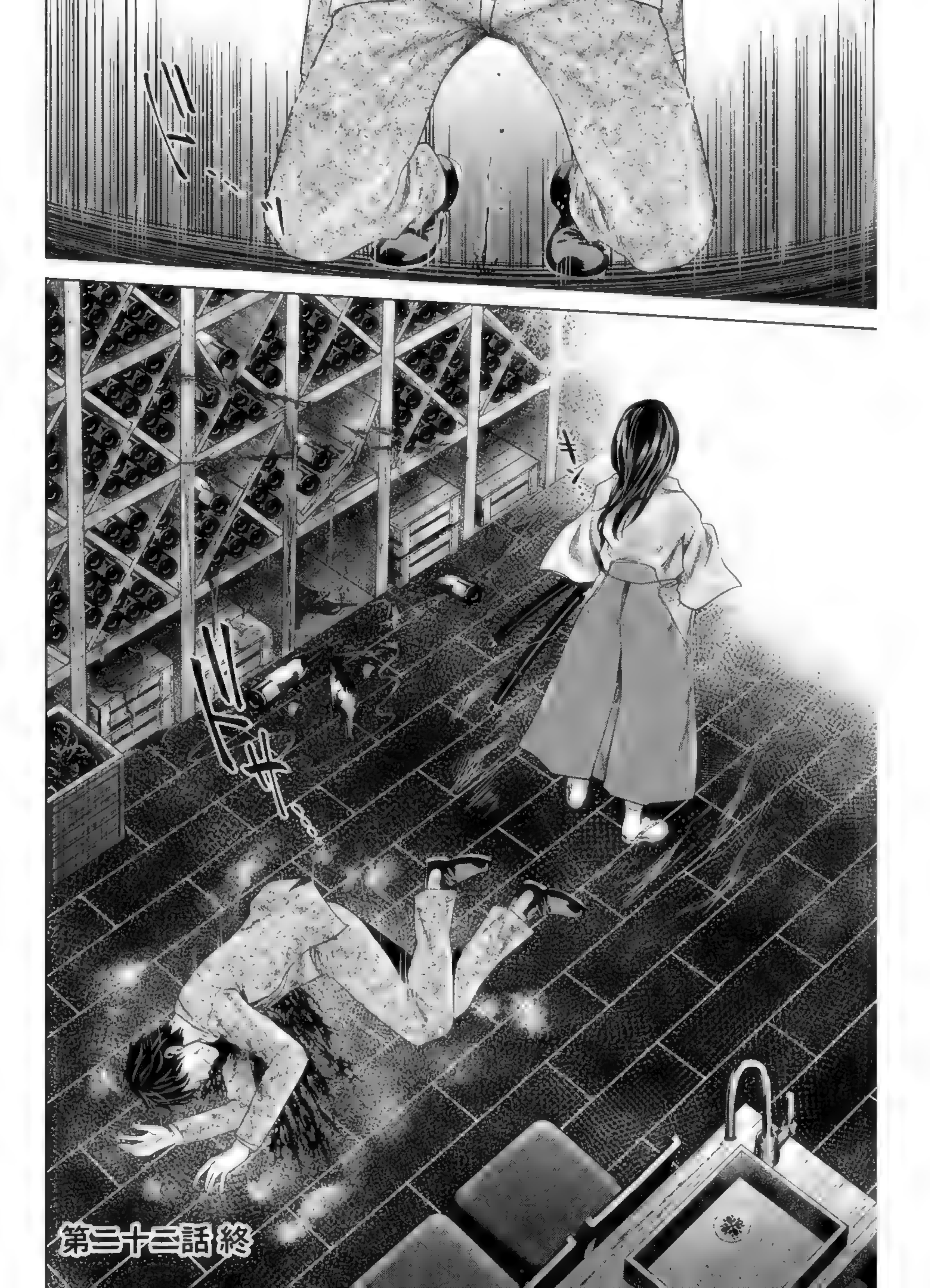

逆効果だった


この世はますます
洞門沙夜を飲みこんだ
その渦を
作り出したのは


僕だ






ジ…
ドサ…
第三十三話 終

すごい出血だ……

僕は……

死ぬのか・・・・




第二十三話 嘆願書


知ってたか？
明治維新で大名家や武家屋敷の庭園が軒並み崩壊して
桜は今や絶滅寸前らしい
よかったな

生きて希少な桜を拝めてよ!

ワハハハ

キャッキャッ

お前も一杯やるかぁ?

べんべん♪








幸い出血の割に
傷は浅かった
ど素人か
よほどの熟練者が
わざと致命傷に
ならぬよう
斬ったようにも
見える

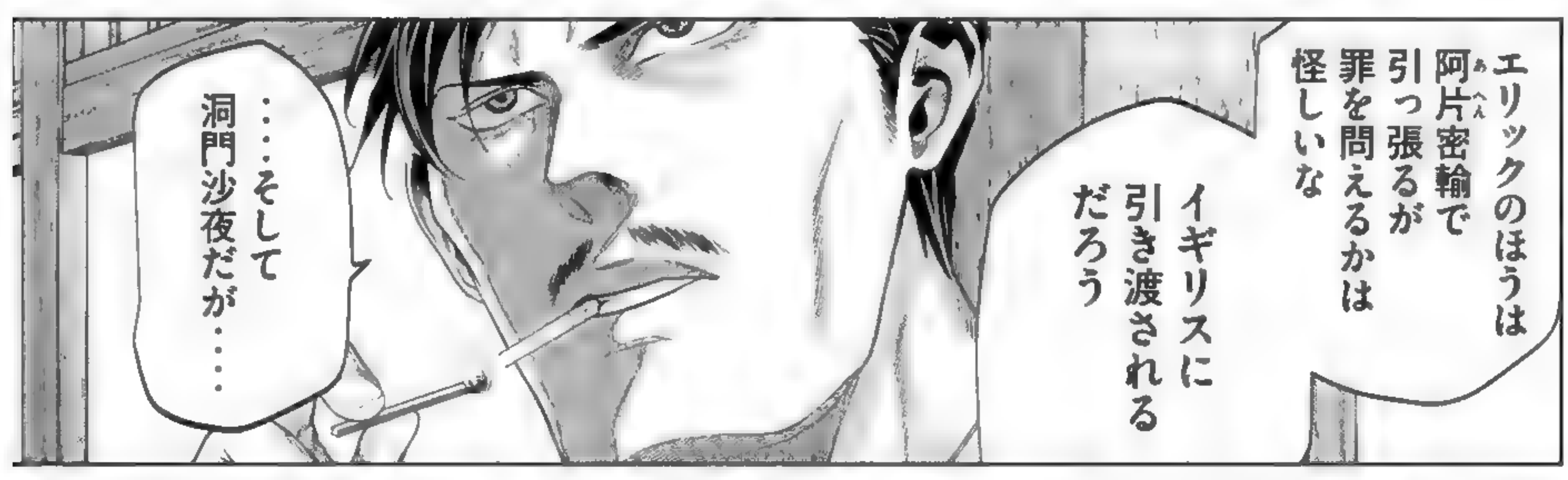



だが親父は
激怒してる


愛州家嫡男を斬った
下手人を
なんとしても
見つけ出せと
政府を動かし
居留地警察に
圧力をかけた
そして・・・・


エリック・ハワードと
首斬り家 洞門沙夜を
捕縛(ほばく)した


!!


エリックのほうは
阿片密輸で
引っ張るが
罪を問えるかは
怪しいな
イギリスに
引き渡される
だろう
……そして
洞門沙夜だが……


今夜
暮れ六つ時




ふーっ


絞首刑に処される


言ったろ？
親父を
本気で怒らせ
ちまったんだ
華族に
傷を負わせた相手が
あの首斬り家と
きちゃあな・・・・
幸乃助
今回ばかりは
もう諦めな
皮肉なもんだ
何百って罪人の
首をはねてきた
洞門沙夜の最期が
絞首刑
とはな
せめて・・・・



苦しまずに
逝けりゃいいが……

御用
御用


おのれ――
よくも幸乃助を……!!
ああ憎い あの女……無垢な幸乃助をたぶらかした上に……
あんな大怪我をっ……
あなた 斬首にして首をさらす方がよろしくては!?
いや
首斬り家は古き時代の遺物
絞首刑に己の存在意義を奪われ

その命までも奪われるがよい!

死神め!!







楽しみだ



待たれよ!!!

ズオッ




二代目宮内卿 徳大寺 實則!
ここに一通の封書を預かっておる!!
ガヤ…
宮内卿…?
なぜ……
スッ
嘆願書
オホン
ぶるる…
愛州幸乃助より

洞門沙夜の処刑を

即刻中止せよ







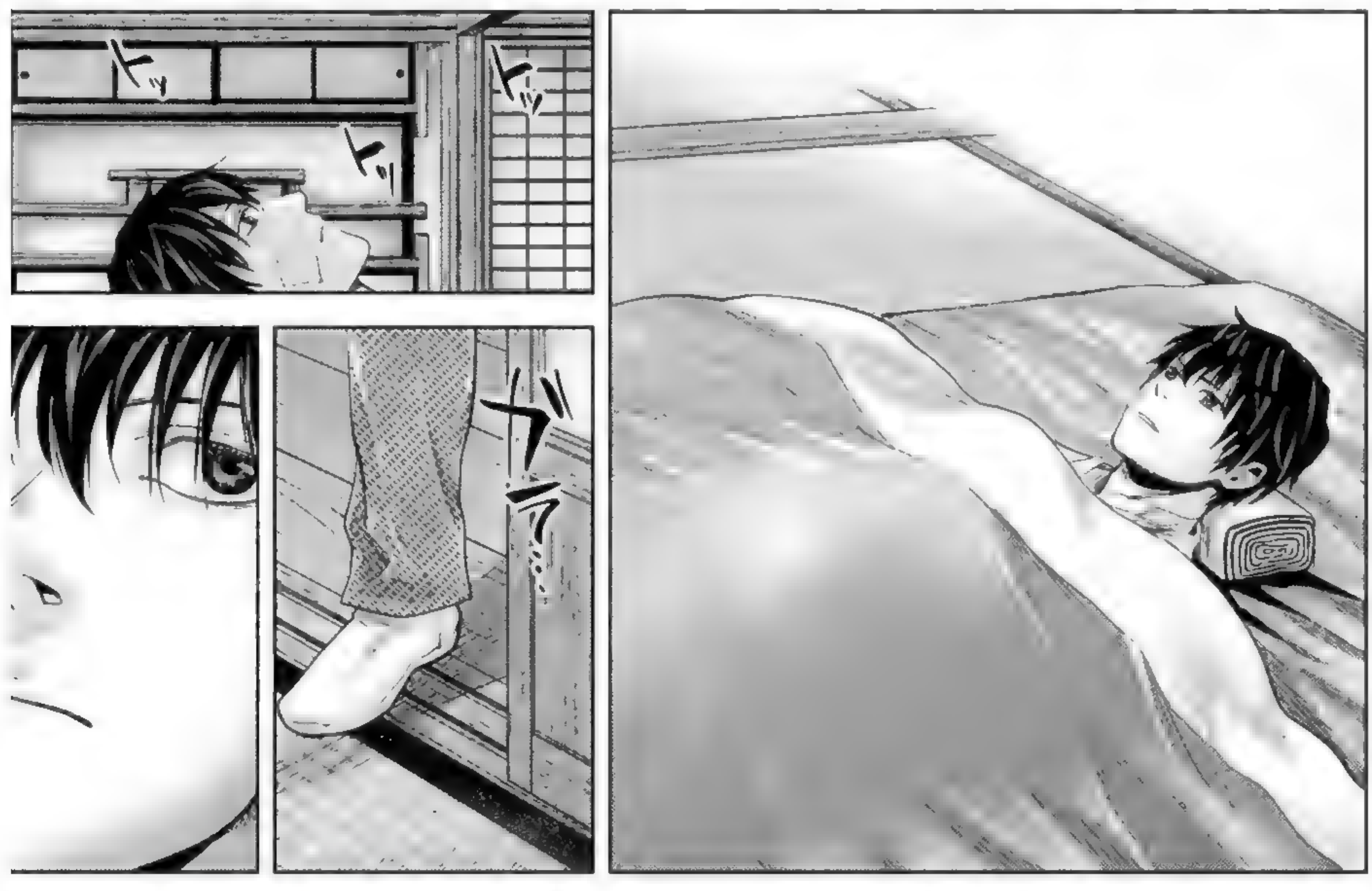


もうよい
儂がやろう
ガ
この手で幸乃助に教えてやらねばならん
我々が下等な者と関わる事など
ギギ
罪にも等しい愚行だと!!
ギギ
……なお




洞門沙夜を
我が妻として
娶ると決めた
第二十三話 終

第二十四話
君と僕が捨てるもの






ザ…
ザッ


幸乃助……
ドサ…


……わしには
わからん




お前が生まれた時……この手に抱いた時
誰よりも幸せになってほしいと「幸乃助」と名付けた


父さん……


お前はわしの宝だ この命に代えても守ると決めている
そのためにならどんな事でもしてきた……!!
なのに……なぜだ?

なぜなんだ……？

なぜ
あんな女にそこまで
こだわる……？



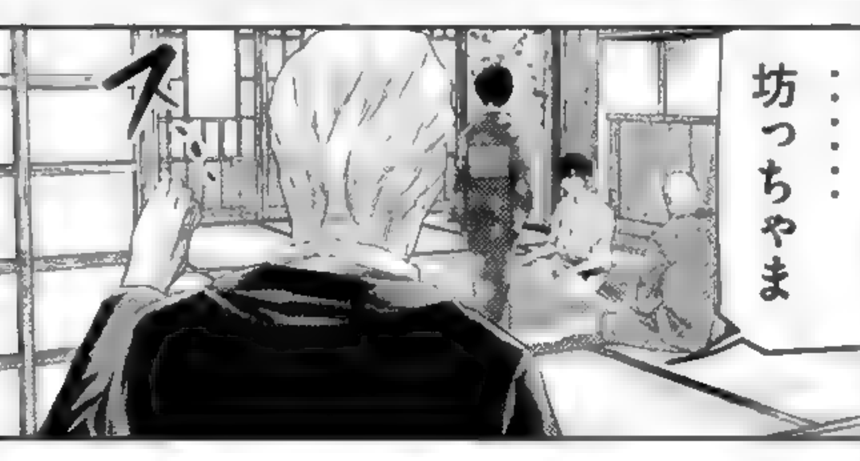




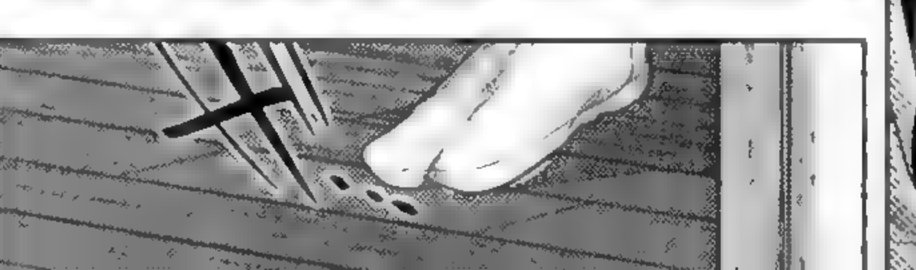
僕は洞門沙夜を妻にする

愛しているから



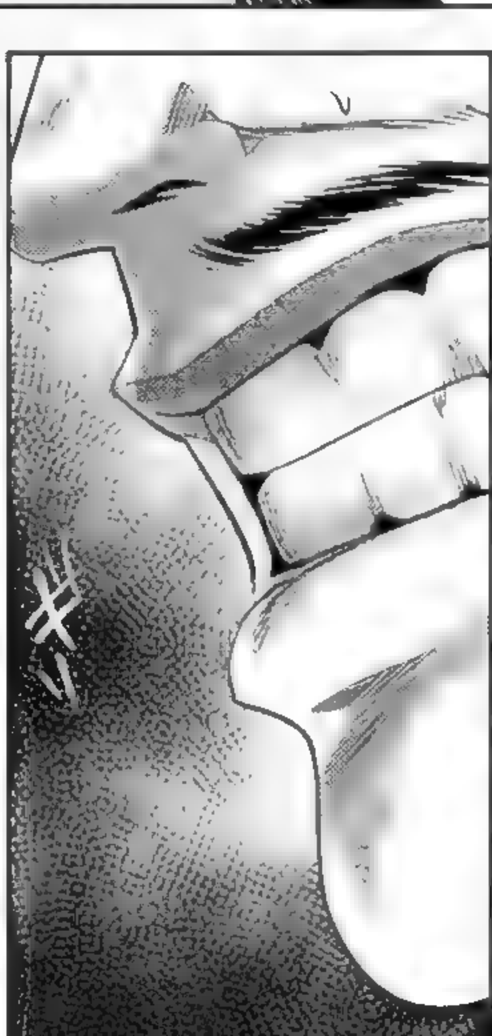








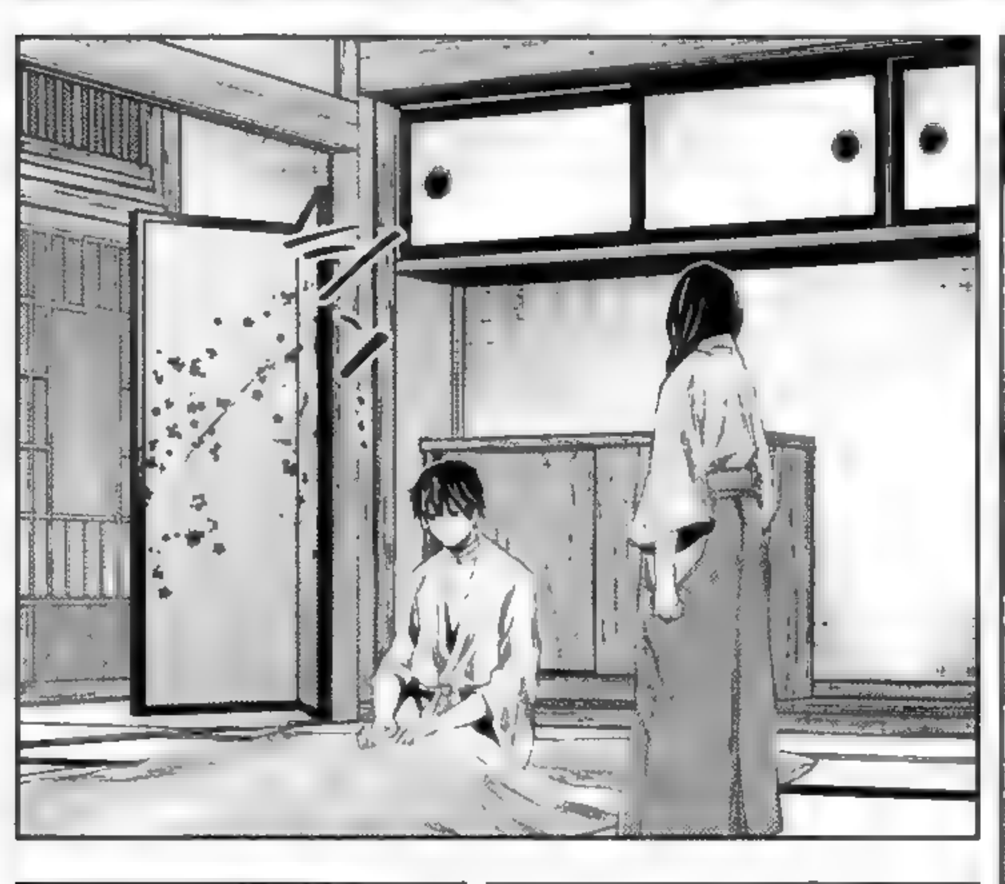



縄を解け
し……
しかし……
いいから


……幸乃助
忘れるなよ


そいつはお前を
殺しかけた
死神だ・・・・!!
死神を
妻にする事など絶対に
許されん・・・・!!


どけ!
ドス
あなた!
ドテ
旦那さま!!
ドス




・・・・・すまない
急な事で・・・・
驚かせたな


だが僕は
・・・・・・
幸乃助


パ


……屈辱だ

死を覚悟した私を助けるために……
「娶る」などと夢ごとをほざいたのか？
情けでもかけたつもりか？

貴様に生かされる覚えは……



……？
妻となる者に
指輪を贈る
風習は……
九世紀にローマ教皇
ニコラウス一世が妻に
贈った事が始まりらしい

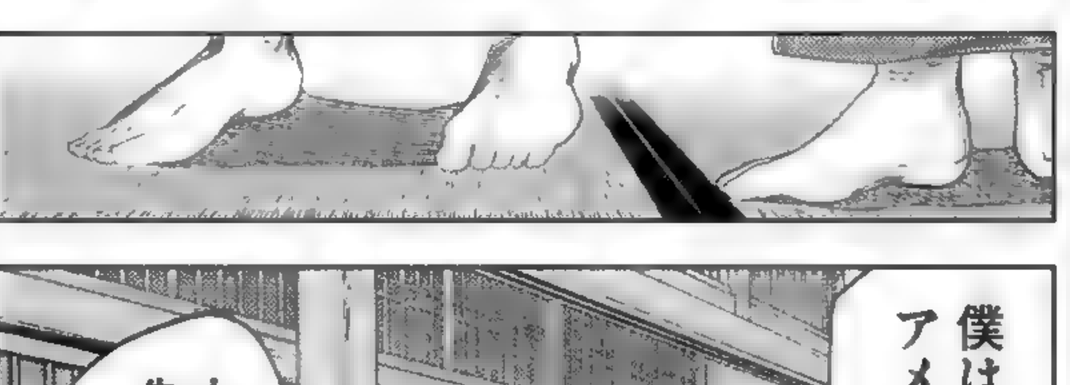

円い形は「永遠に途切れない愛」を意味するとされ
古代ギリシャで心臓とつながる血管があると思われていた左手の薬指にはめるんだ


……何を
馬鹿な事を……


君にこの指輪を贈りたい
刀の代わりにその手に握るものとして……
やめろ
笑えない冗談だ


私がお前の妻になるだと⁉
貴様と私はあまりに違う
生きる道が交わる事はない！


「お前と私で何が同じだというのだ」
・・・・君はそうも言ったね




僕は吉原に行きアメリカに行き
大切な女性を失いもした
それでも……


答えは見つけられなかった
君と僕で何が同じなのか・・・・



だから決めたんだ

同じになればいいと








二人で

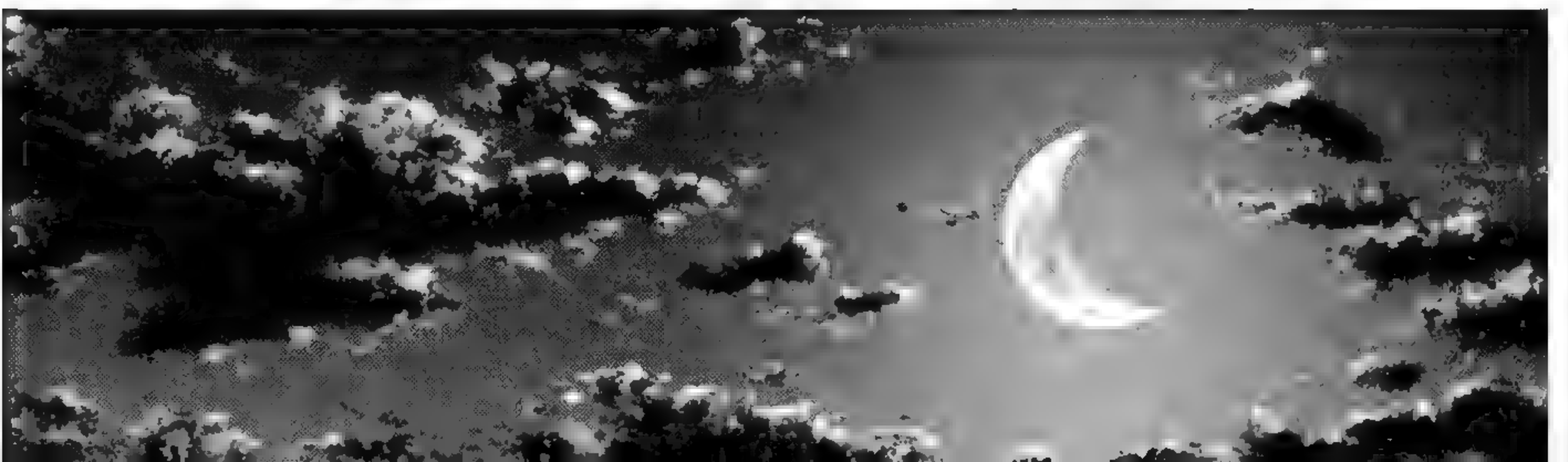




どこか遠く……誰もいないところで

全てを捨てて

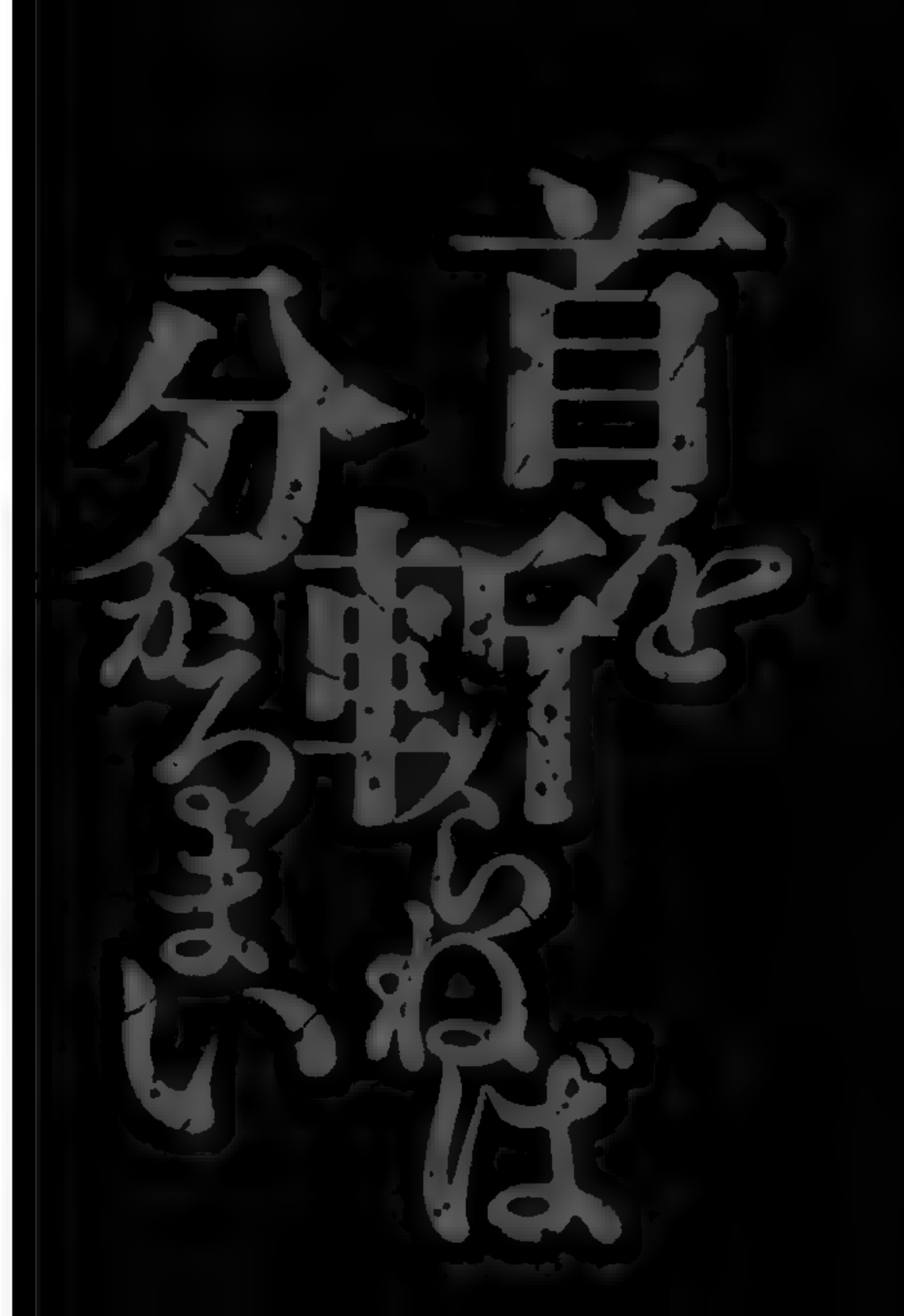
二人だけで生きていこう!!





号外〜〜
号外!!
愛州幸乃助が「首斬り家」洞門沙夜に求婚したそうだ!!
ええぇ!? 幸乃助さまがあの・・・死神を!?
んな莫迦な話あるかい!!
死罪になるのを嫁にするからと止めたって!?


幸乃助さま……？
グググ
ニヤ
第二十四話 終


首を斬らねば
分かるまい



第二十五話 初めての暮らし







ここなら誰も来ない





……少し……驚いたからな

お前にここまでの度胸があったとは

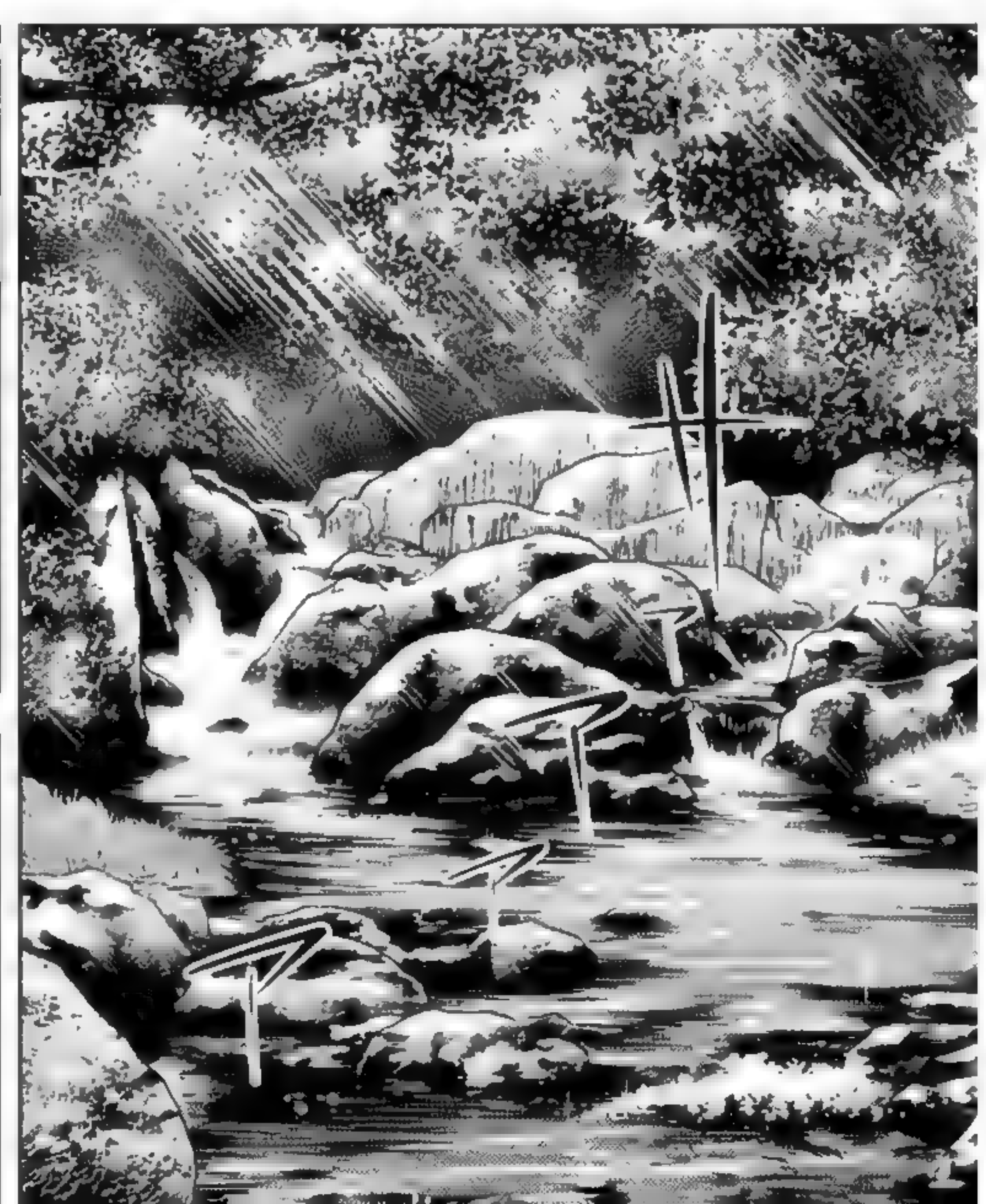








ぐぅぅぅ



……釣れるかな
兄さんは確か
こんな感じで……
スッ


沙夜も‥‥やらないか？
‥‥え？
エサをつけて‥‥川に投げればいいだけだから






‥‥綺麗な髪だね‥‥


魚に食わせるよう動かすんだ
…うむ‥‥
浮きが沈んだら合わせて‥‥


ビクッ


…ご……
ごめん……
………
…すまん


……
……
慣れて
ないのだ




人に……
触れられる事も
触れる事も

……沙夜……

ギュッ






ビシャア
バタ
バタ


やった!!
いいヤマメだ……
でかいぞ!!


ほら!!

私が・・・・

釣ったのか！




はふ
はふ


ゴクン…


……美味いな
うん!! 最高だ

ホー…ホー…
クォォ…っ


……ありがとう


……え？


首斬り家以外の暮らしなどまるで知らなかった
こんな生活は……初めてだ


僕も同じさ……華族の暮らししか知らない
君とじゃなきゃ
捨てる勇気なんてなかった










…っ…!!


な…なんて美しいんだ…!!
吸いこまれる……!!


幸乃助(ゆきのすけ)

本気で
全てを捨て二人で生きていけると思うか？
我々は明治の有名人だ
今頃 世間は必死に行方を追ってるだろう











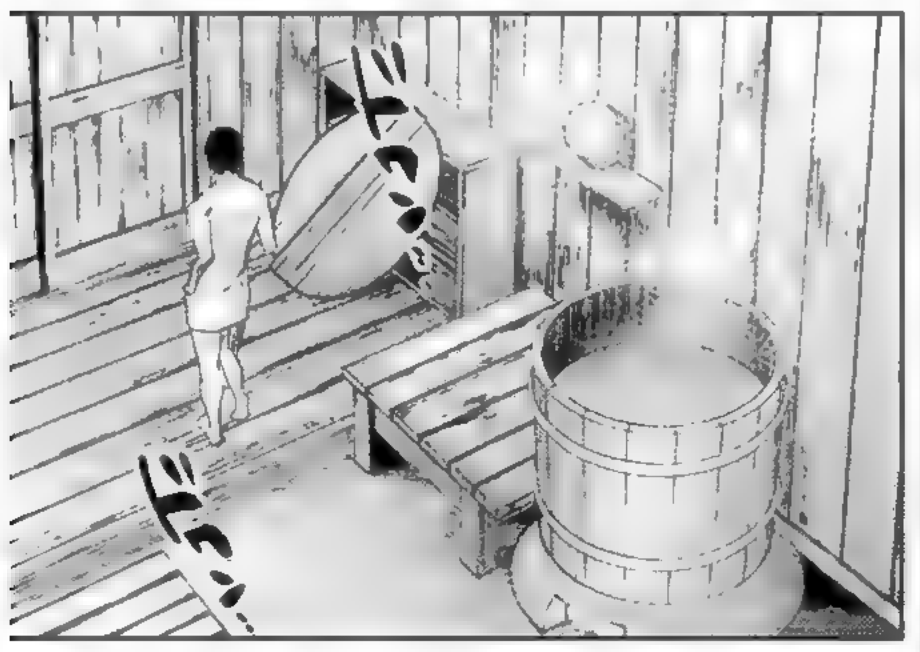

……沙夜っっ!!
幸乃助……!!




ザブン
遂に
ゴポポ・・・


遂に・・・夢にまで見た時が訪れる・・・!!
ドッ
僕はこれから
ドッ
洞門沙夜を抱く・・・!!

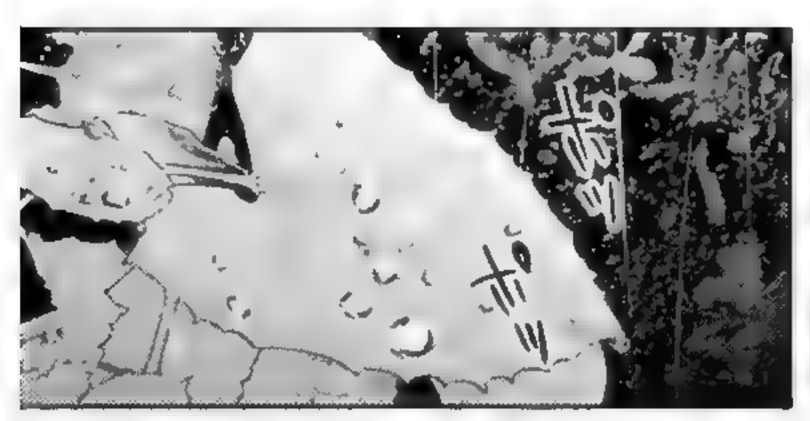

案ずるな!!本能のままに・・・!!
バシャッ


ドクン・・・
ドクン・・・


ま・・・待たせたね
ガラ・・・
上がったよ
!


ギィ
……沙夜……!?
第二十五話 終


沙夜(さよ)!!
どこに行ったんだ!!
第二十六話 抱くか死か


ポッ
ポッ

そんな…どうして消えてしまったんだ!?
全(すべ)てを捨てると…契(ちぎ)ったではないか!!

…沙夜…


沙夜おおおお!!
ザザ
ザァァァ…

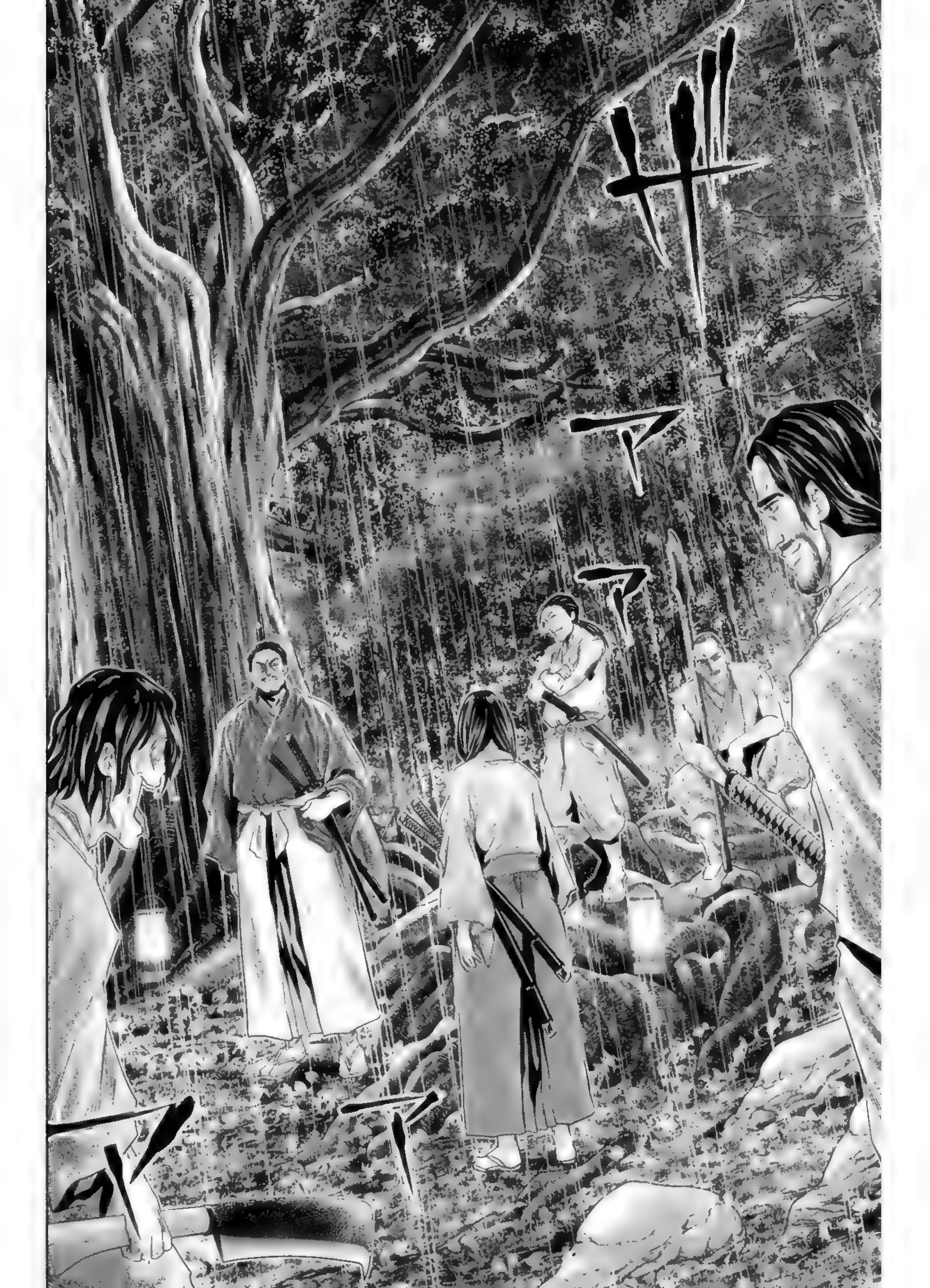
ザァァァ…
パキ…

約束は——
守れよ








ザアア
ア



へぇ・・・・
これが八代目の
首斬り家かい
なかなか
そそる女だな
殺る前に
ちっと
楽しんでおくか?

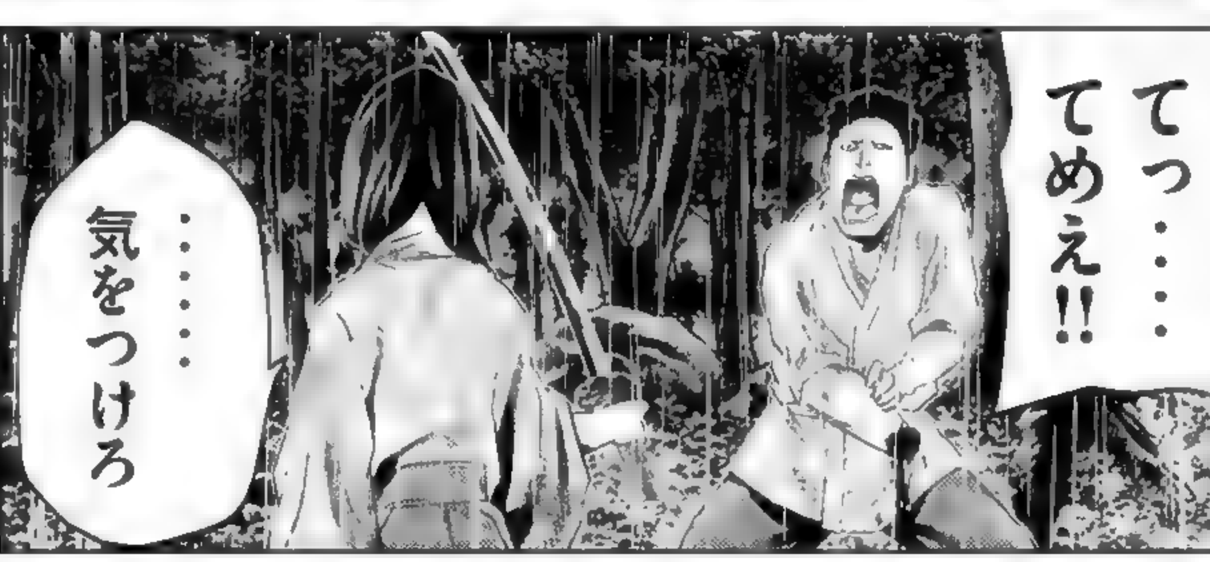
・・・・・・
なるほどな

どれどれ
肌の具合は
どうだ?
おお
すべすべで・・・・





ぎゃあああ!!


てっ・・・・
てめえ!!
・・・・・・
気をつけろ


今私に
触らないほうが
いいぞ
・・・大事な時を
邪魔され気が
立っているからな


阿呆
うかつに
近づくな
囲め

ザッ

見たところ食うに困った士族か
誰に雇われた？







ザアアアア…


沙夜……
ズキン…




どこに行ったんだ……
戻ってきてくれ!!
君となら……どんな事でも
乗り越えられる!!

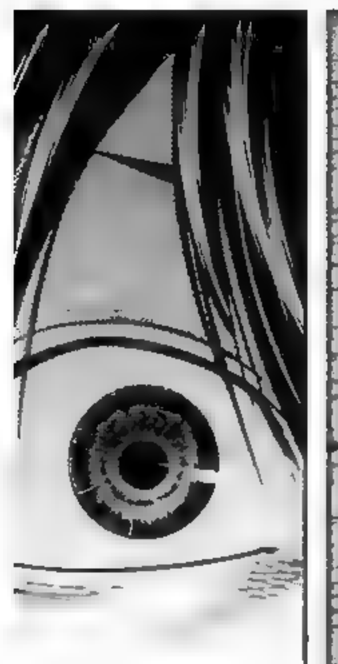



トン
トン

!!
バッ

さっ……
沙夜!?

沙夜なのか!?
ダッ
戻ってきてくれたのか!?

ガチャ



晴美ですわ


幸乃助さま


なっ……
ど……
どうして……
ここが……


昔お話しになっていたのですわ
お兄さまと遊ばれた秘密の場所があると


幸乃助さまが
あの女と消えたと
聞いて‥‥ここだと
勘づきました
私は‥‥
幸乃助さまの事なら
なんでも
わかるのです




晴美さん‥‥
聞いてくれ
‥‥‥
‥‥‥ひどいですわ


婚約
しているのは
私でしょう?
なのに
どうして
あの女と‥‥


ドッ
うわっ!!


ドッ
駄目だ……!!
わかってくれ
晴美さん
僕はもう
決めたんだ!!
洞門沙夜を
妻にすると!!
抱いて
プルッ
!
それは
できな……

私を抱かなければ

あの女の命はありませんわよ・・・・？



ぎゃは!!

うっ…!!

ひるむな!!
次々行け!!

奴の刀はもう
血でべっとりだ!!
刃こぼれもしてる!!







……っ……!!





スッ

死神だろうが女は女だ‥‥大勢で囲みゃあなんてことねえ

ググ

っ‥‥‥!!

しかし仲間が何人も殺られちまったからよ

このままじゃ

ツ……

満足できねえ






ビッ
ザァァァァ
第三十六話 終

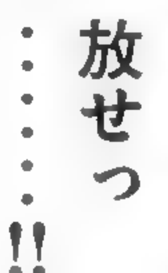
……!!

ビリッ

第二十七話 五稜家の娘と呼ばれた女



…っ……!


放せっ……!!


へへ……へへ……
思ったより
いい体
してやがる
さらしの中に
そんなもん隠して
やがったとはな


おい しっかり足上げろ
入れらんねえだろ
わかってるよ
そらっ!!

ぐうっ・・・・・!!



たまんねえぜ・・あの死神が男にこーんな股開いてる!!
女の悦びってもん教えてやるよ
俺の刀でな



やめろ・・・・!!
貴様ら!



貴様ら・・・・・・

莫迦(ばか)だな

本当に








さて‥‥
残るはお前だけか
ひっ‥‥‥
く‥‥くそっ‥‥‥
誰に頼まれたかさっさと吐け
苦しまずに殺してやろう
‥‥そうすれば


ザァァァ

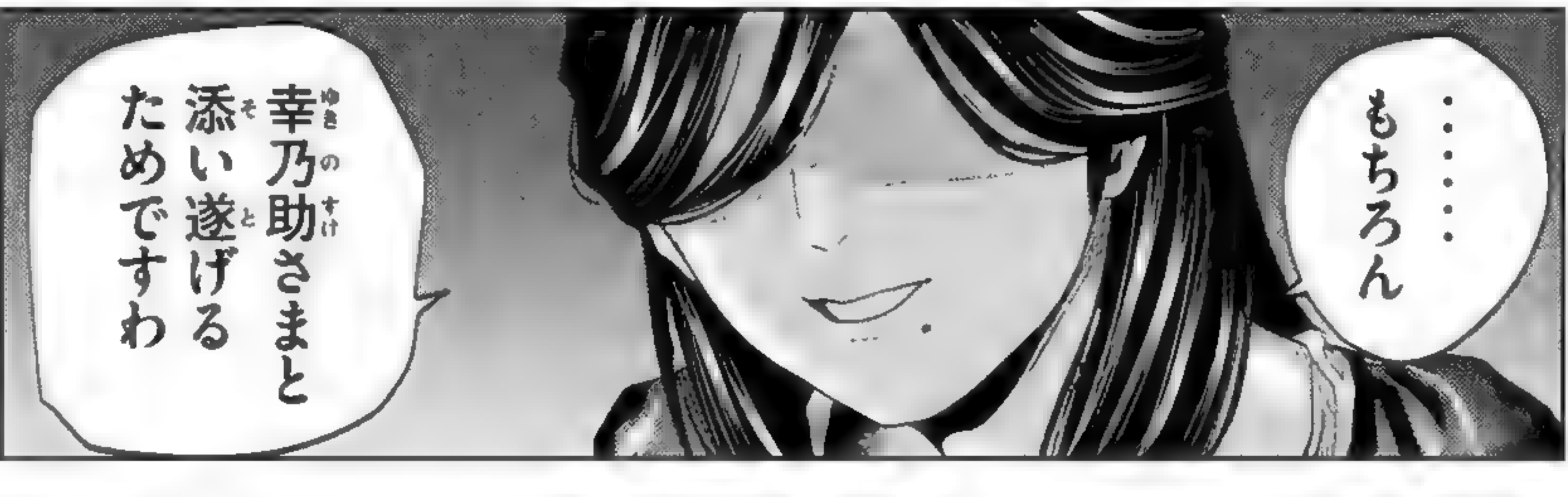

晴美さん・・・・
君が・・・・
洞門沙夜を攫ったのか!?




ええ・・・・
今頃あの女を痛めつけていますわ
命は取るなと言ってありますが・・・早くしないと どうかしら?


――っ・・・
なぜ・・・・

なぜ
そんな事を!!
どうして沙夜を!!
君は最低だ!!
なんのために
そこまで
するんだ!!











私は最初から

あなただけを見ておりましたわ








「五稜家の娘」として育ち
「五稜家の娘」として嫁ぐ
それが私の人生・・・
私の意志など
どこにもありませんでした
でも
あの時
愛州家の
幸乃助さま
ですわ
家に芸事を
学びに来て
くださったの
失礼のない
ようにね
失礼します
よろしく・・・・
お願いします
五稜・・・・
晴美です
!


こんにちは‼
やっと会えたね
僕と友達になってよ‼
……え……？
ドキッ
得意な事は何かな？
琴が少しできますわ……
じゃあ僕に教えてよ‼
はい……


幸乃助さま
なんだい？
どうして晴美なんかと友達に・・・・？
私には・・・五稜家の娘という事以外何もありません
だって君は琴がすごく上手だし!!
それにお花や植物にも詳しいでしょ？
君といるととても楽しいんだ!!
どうして・・・・仲良くしてくださるの？
私といると・・・・
楽しい・・・・？
うん!!

晴美さんの事を
もっと知りたいな!!




私は初めて……名前を呼ばれた
五稜家としてでも華族でもなく
一人の人間として求められた気がしたのです
……晴美さん……
――だから……
ギュ
耐えられないのです幸乃助さまが去っていく事に
あの首斬り家の女に私の全てを奪われる事に
ドサッ
……幸乃助……さま……
お願いです

晴美を・・・・

お側に置いてください・・・・!!



愛されなくても・・・・憎まれても・・・・構いません

あなたと共にいられるならそれだけで・・・!!


……………!!


……ありがとう
晴美さん



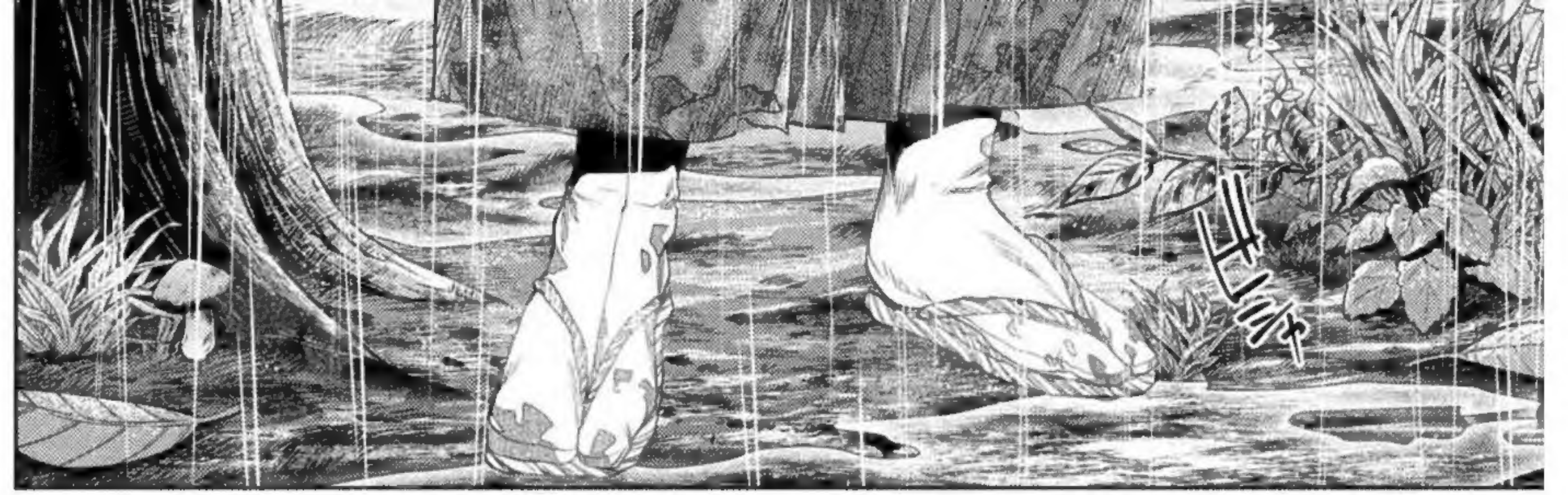

君の事を……憎んだりしない
この世の誰より僕の事を知る女性だろう


幸乃助さま……


……晴美さん
もう泣かないで




ザアアア



第二十七話 終

愛する女のために、首を斬れ。

今ここで

共に生きようと言う幸乃助に対し、沙夜が出した〝条件〟。

その女を殺せるか……？





首を斬らねば分かるまい

第4巻

2020年11月6日(金)発売予定!!

※この物語はフィクションです。実在の人物・団体・出来事などとは、
一切関係ありません。

※収録されている内容は、作品の執筆年代・執筆された状況を考慮し、
　コミックス発売当時のまま掲載しています。

首を斬らねば分かるまい（3）

2020年8月1日発行（01）

原作　門馬司
著　奏ヨシキ

発行者　森田浩章

発行所　株式会社　講談社
〒112-8001
東京都文京区音羽2-12-21